

平成20年度
総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果
概 要

平成21年1月



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

目 次

1. 総合型地域スポーツクラブ育成状況調査	
1 調査の概要	1
2 調査結果の概要	2
2. 総合型地域スポーツクラブ活動状況調査	
1 調査の概要	4
2 調査結果の概要	
(1) クラブの概要	5
(2) クラブの設立	6
(3) クラブ会員	8
(4) クラブ会費	9
(5) クラブの事故対策	10
(6) クラブの活動内容	11
(7) クラブの広報活動	13
(8) クラブ所属のスポーツ指導者	14
(9) クラブの事務局体制	16
(10) クラブの活動費	21
(11) クラブの活動拠点施設	22
(12) クラブハウス	23
(13) クラブ設立の効果	24
(14) 広域スポーツセンターとの関わり	25
(15) クラブの現在の課題	26

* 参考 総合型地域スポーツクラブ育成状況調査結果一覧（推移含む）

1. 総合型地域スポーツクラブ育成状況調査

1 調査の概要

(1) 目的

全国において、創設された総合型地域スポーツクラブ及び創設準備中のクラブの状況を把握し、今後の総合型地域スポーツクラブの育成推進のための基礎資料とする。

(2) 対象

総合型地域スポーツクラブを育成している市区町村
総合型地域スポーツクラブ及び創設準備中のクラブ

(3) 実施期間

平成20年5月19日～7月16日

(4) 実施方法

各都道府県教育委員会（または担当部局）生涯スポーツ主管課に対して、域内の総合型地域スポーツクラブを育成している市区町村及び創設された総合型地域スポーツクラブ並びに創設準備中のクラブの状況（平成20年7月1日現在）を調査

(5) 調査票回収状況

配布数 47 回収数 47 回収率 100.0%

2. 調査結果の概要

平成20年7月現在、全国では1,046の市区町村（1,810市区町村中）においてクラブが育成（創設及び創設準備）されている。その内訳をみると、736の市区町村においてクラブが既に創設されており、399市区町村においてはクラブ創設準備中となっている。

また、全国で育成されているクラブ数をみると、2,768のクラブが育成されている。そのうち、2,233のクラブが既に創設されており、535のクラブが創設準備中となっている。

このうち、253クラブが法人格を有し、80クラブが指定管理者として公共施設の管理を行っている。

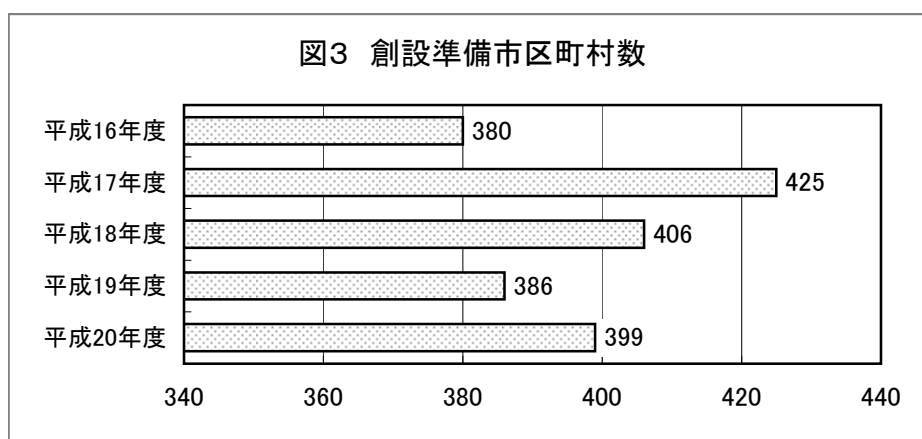
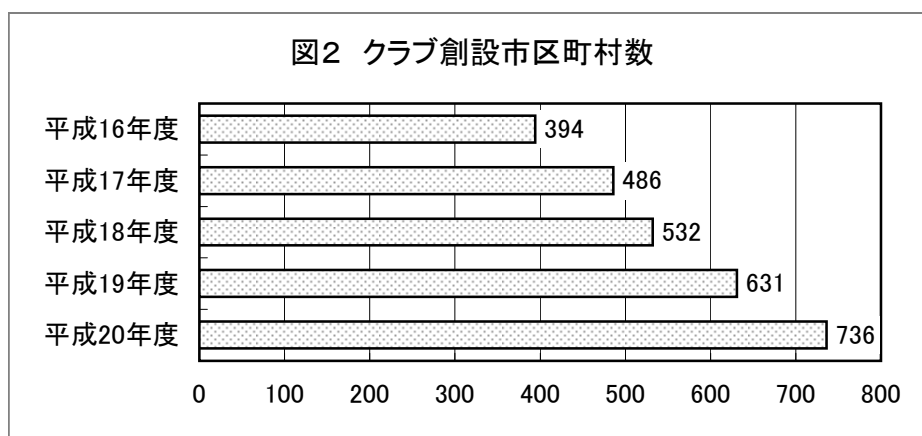
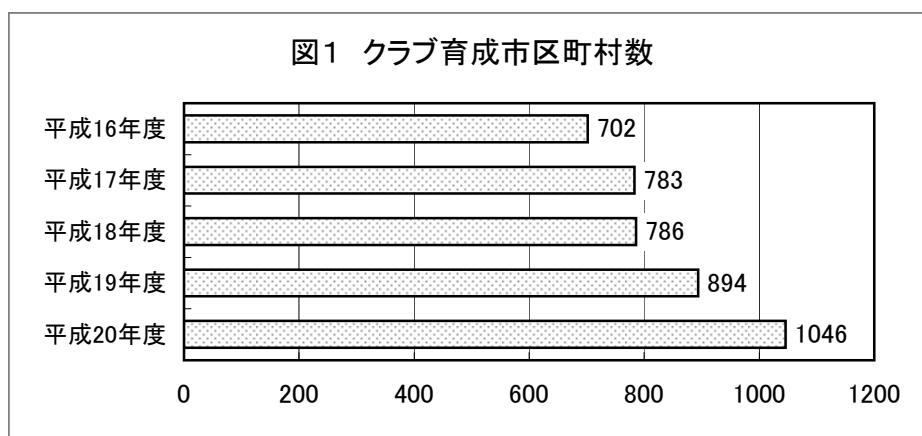


図4 育成クラブ数

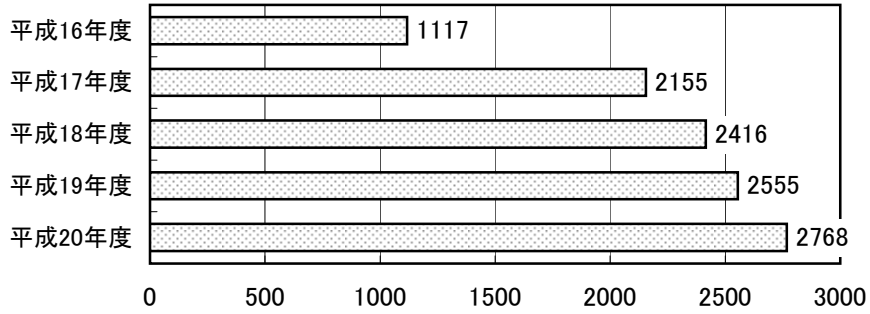


図5 創設クラブ数

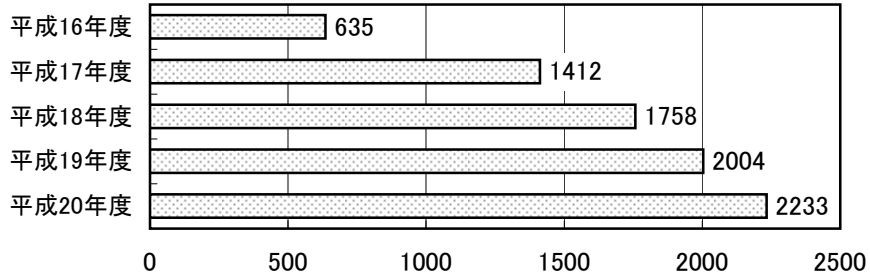
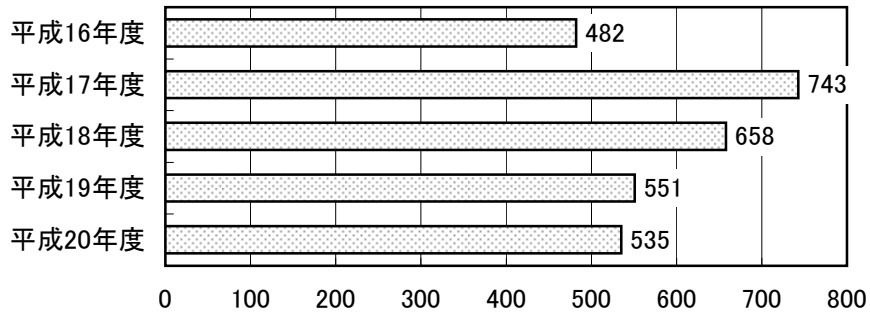


図6 創設準備クラブ数



※参考（平成20年度のみの数値）

全国の市区町村数	1)創設済みクラブ数	1)のある市区町村数	2)創設準備中クラブ数	2)のある市区町村数	3)育成クラブ総数(1)+2))	3)のある市区町村数(重複除く)	法人格取得クラブ数	指定管理者となっているクラブ数
1,810	2,233	736	535	399	2,768	1,046	253	80

2. 総合型地域スポーツクラブ活動状況調査

1 調査の概要

(1) 目的

全国において、創設された総合型地域スポーツクラブの設立経緯、活動内容、課題等を把握し、今後の総合型地域スポーツクラブの育成推進のための基礎資料とする。

(2) 対象

総合型地域スポーツクラブ

(3) 実施期間

平成20年5月19日～8月22日

(4) 実施方法

各都道府県教育委員会（または担当部局）生涯スポーツ主管課を通じて、域内の総合型地域スポーツクラブに対して活動状況（平成20年7月1日現在）を調査

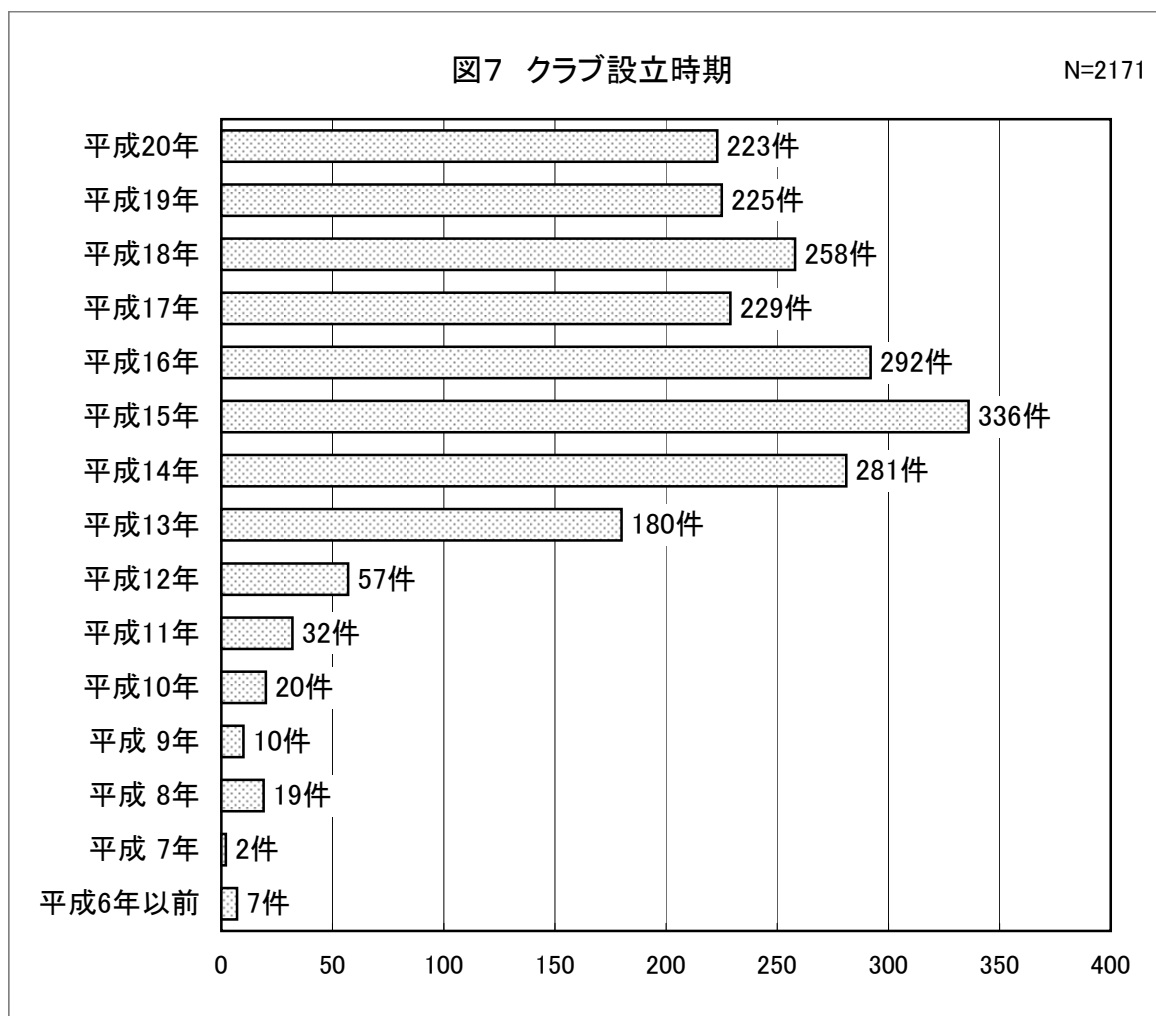
(5) 調査票回収状況

配布数 2,233 回収数 2,205 回収率 98.7%

2 調査結果の概要

(1) クラブの概要

クラブが設立された時期は、「平成15年」が336と最も多く、続いて「平成16年」が292、「平成14年」が281となっている。平成14年以降は、毎年200を超えるクラブが設立されている。



(2) クラブの設立

クラブを設立したきっかけは、「自治体からのすすめ」が59.0%と最も多く、続いて「母体となる活動から自主的（自然）に」が24.0%となっている。

また、クラブを設立したときの形態は、「新たな会員により設立」が37.1%、続いて「複数のクラブを統合して設立」が30.4%となっている。

クラブの設立に要した期間は、「6ヶ月以上1年未満」が34.5%と最も多く、続いて「1年6ヶ月以上～2年未満」が17.0%、「6ヶ月未満」が13.5%となっている。

クラブを設立するに当たっての課題としては、「既存団体との調整」が57.5%、「会員の確保」が54.6%、「指導者の確保」が48.7%、「会費の設定」が47.9%などとなっている。

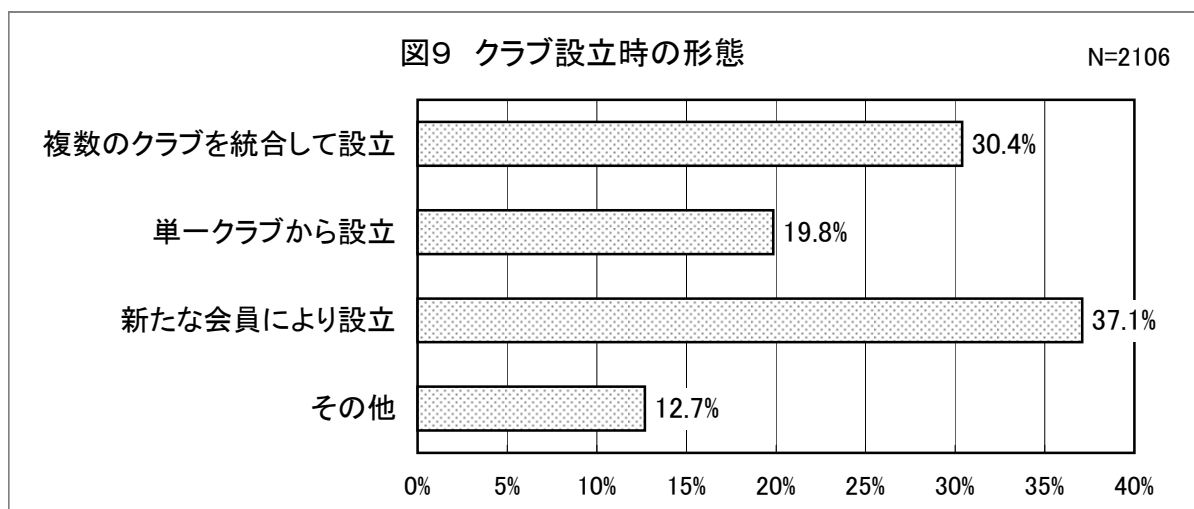
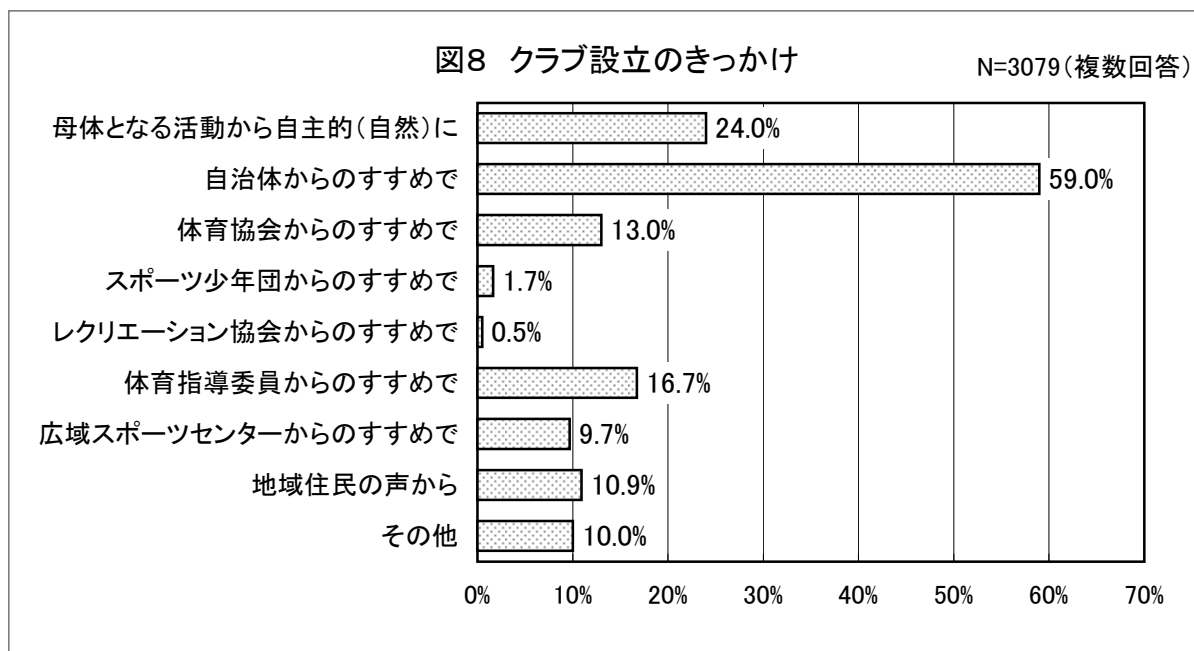


図10 クラブ設立に要した期間

N=2099

□6ヶ月未満 □6ヶ月以上～1年未満 □1年以上～1年6ヶ月未満
 □1年6ヶ月以上～2年未満 □2年以上～2年6ヶ月未満 □2年6ヶ月以上～3年未満
 □3年以上

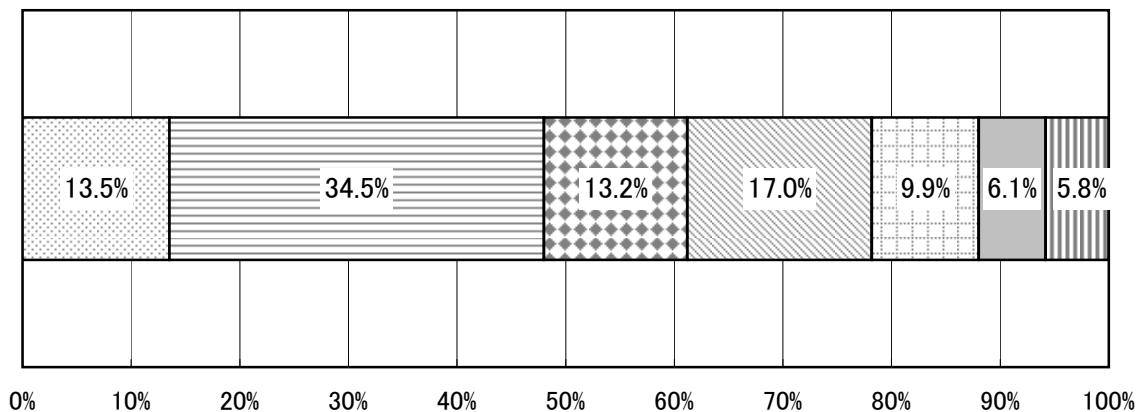
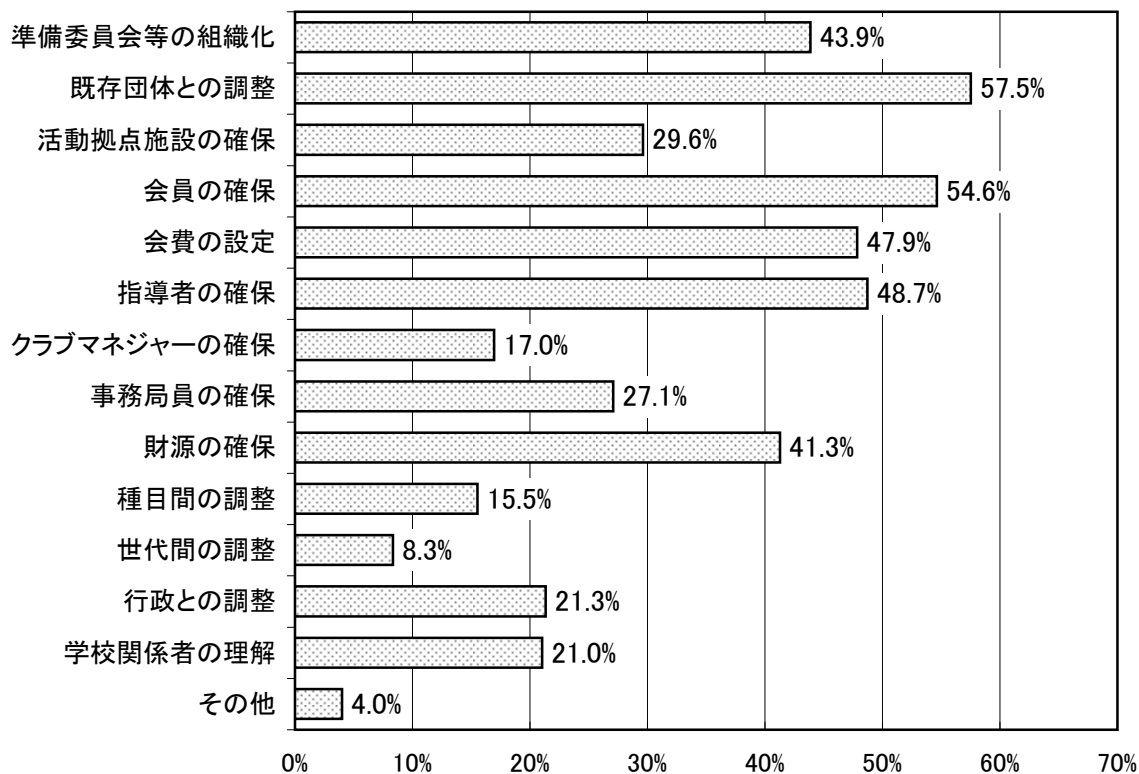


図11 クラブ設立時の課題

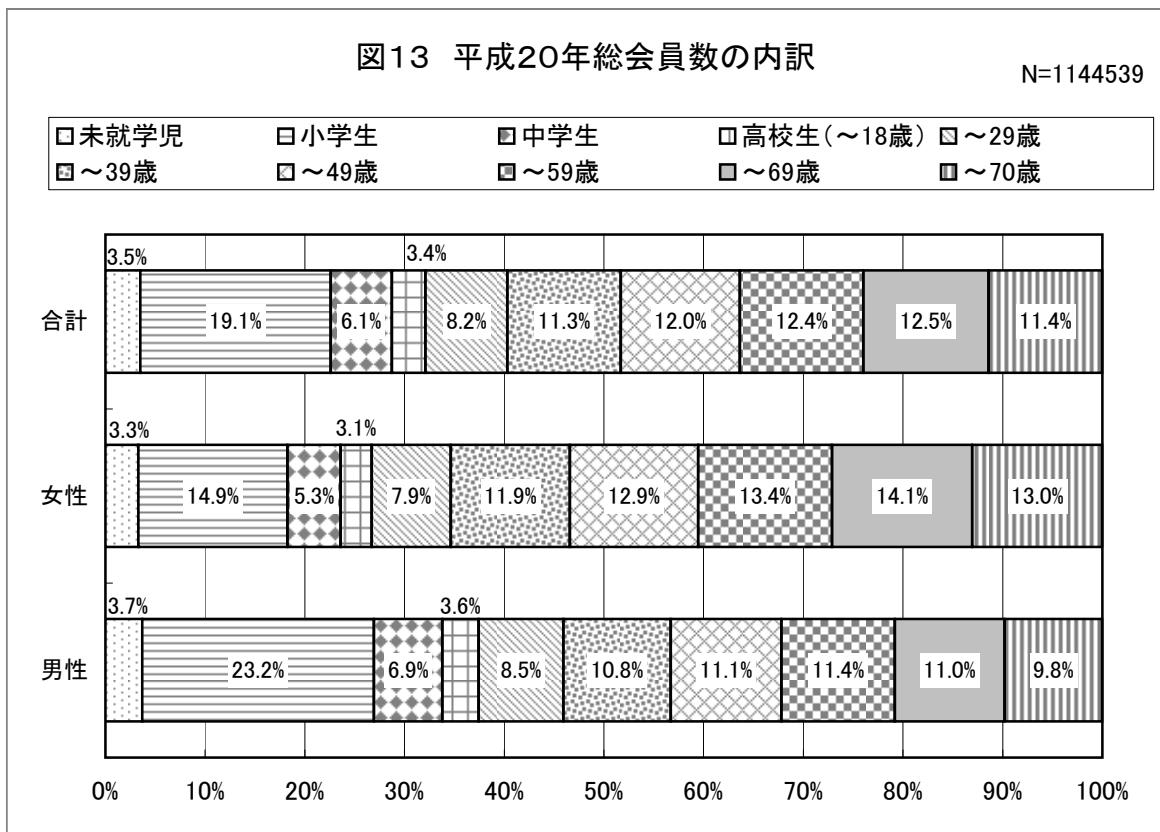
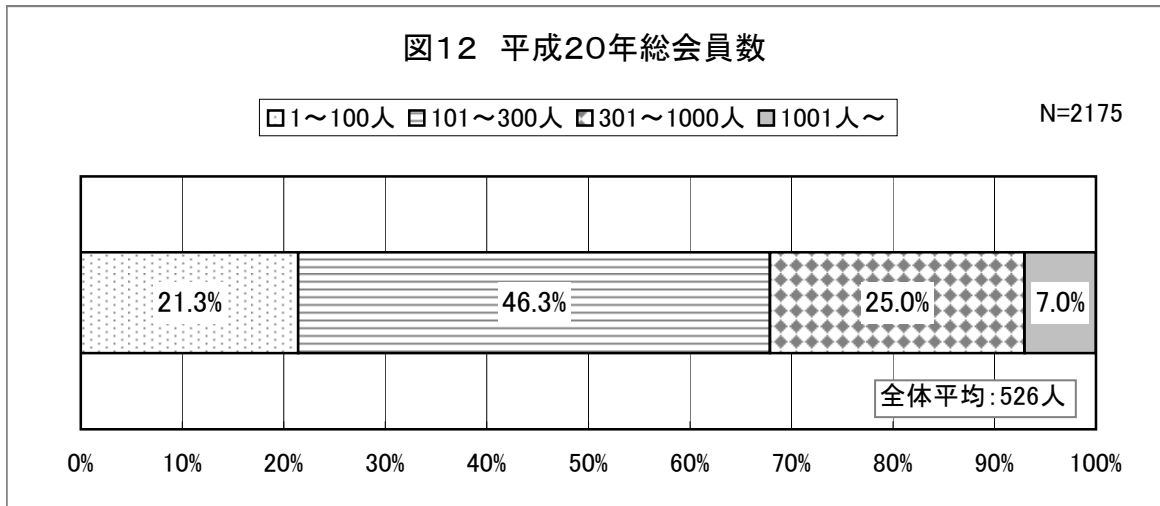
N=9193(複数回答)



(3) クラブ会員

クラブの会員規模は、「101～300人」が46.3%、「301～1,000人」が25.0%、「100人以下」が21.3%となっており、全体平均は526人となっている。

また、その内訳をみると、小学生が19.1%と最も多く、続いて「60歳代」が12.5%、「50歳代」が12.4%、「40歳代」が12.0%となっている。

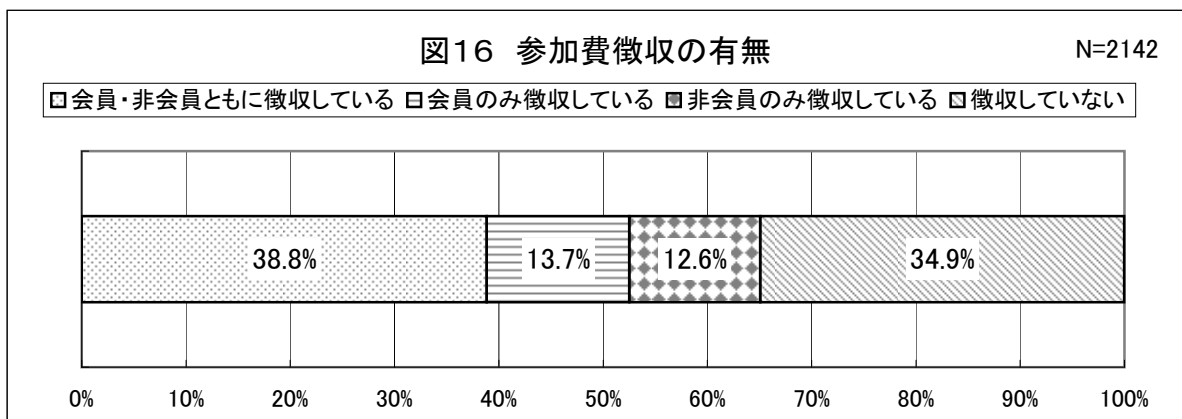
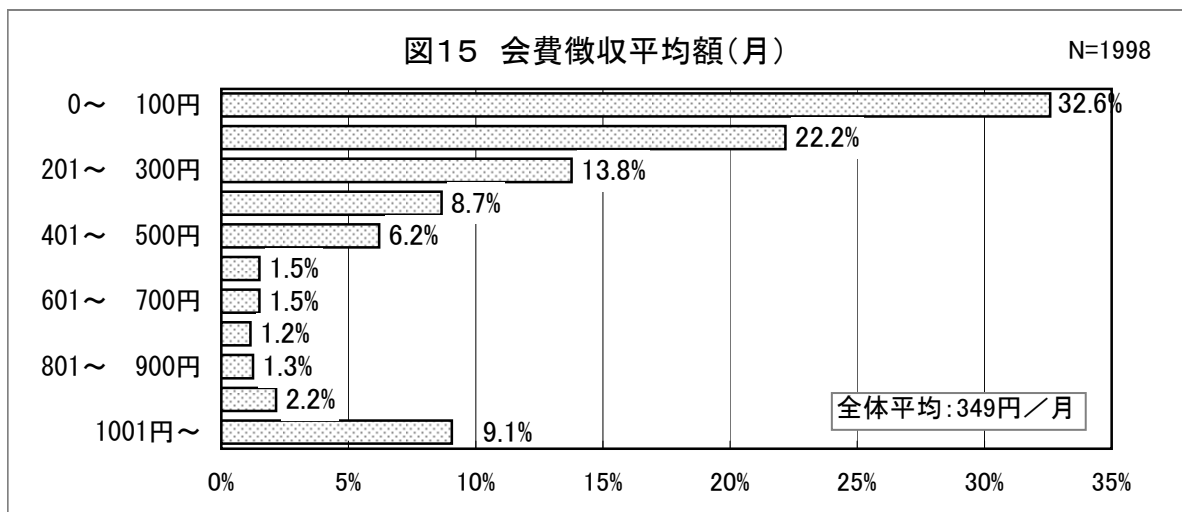
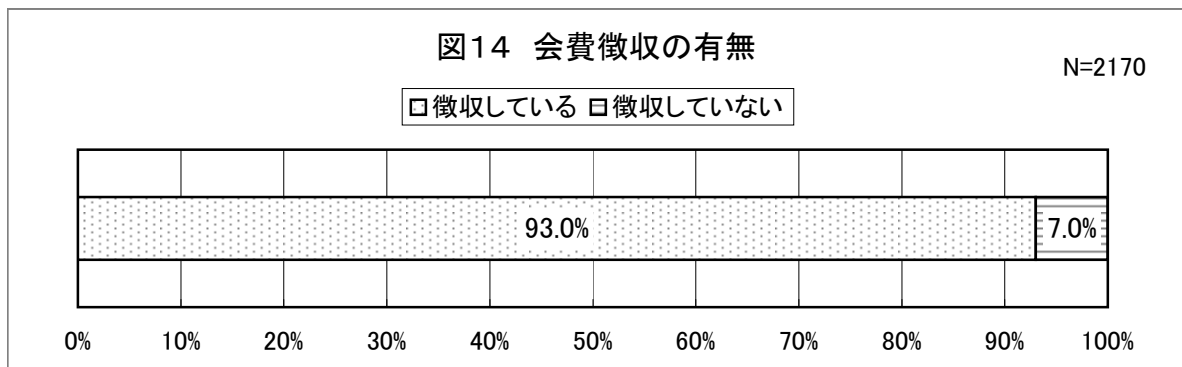


(4) クラブ会費

クラブの会費徴収は、「徴収している」が93.0% (H19は92.8%) であり、徴収しているクラブの会費平均額は349円/月 (H19は398円) となっている。

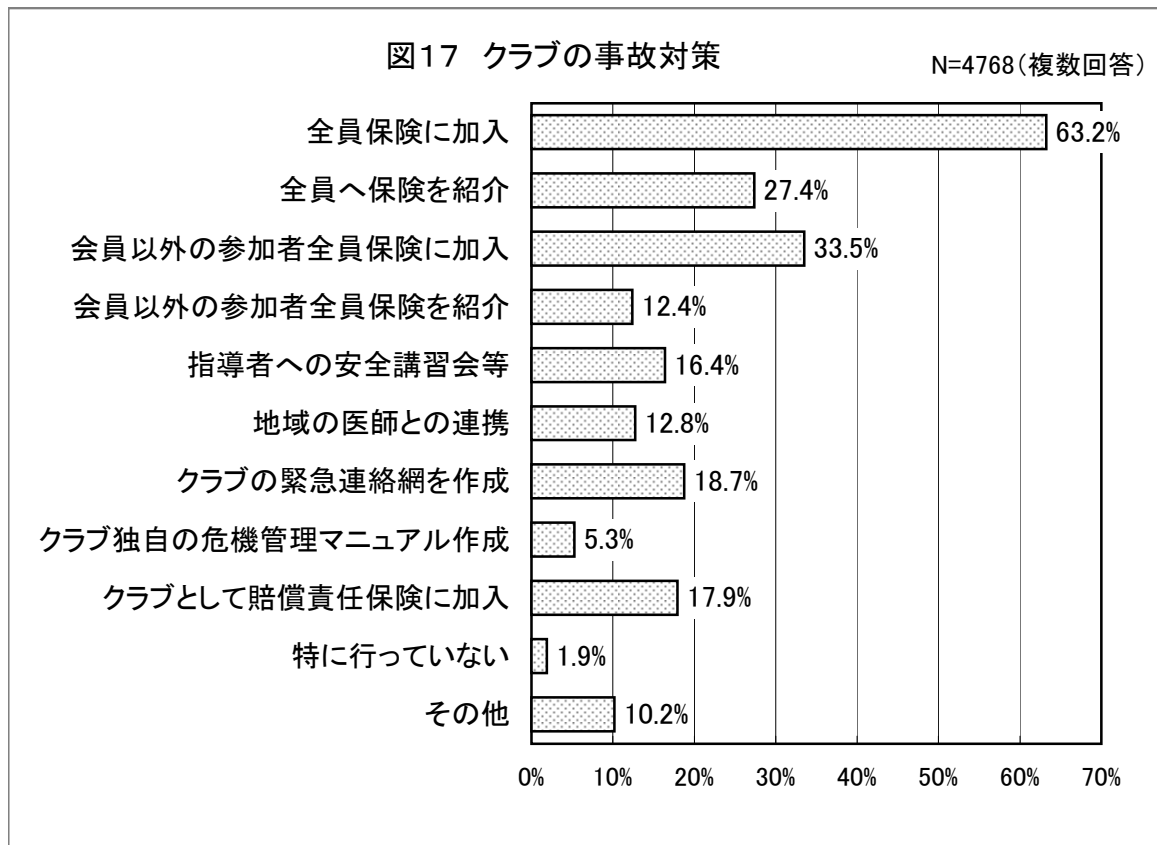
また、徴収額別にみると、「100円/月以下」が32.6% (H19は34.9%)、「101～200円/月」が22.2% (H19は22.6%)、「201～300円/月」が13.8% (H19は12.5%) となっており、68.6% (H19は70.0%) のクラブが「300円/月」以下の会費を徴収している。「1,001円/月」以上の会費を徴収しているクラブは9.1% (H19は7.9%) である。

会費以外の参加費 (スクールや教室への参加費) の徴収については、「会員・非会員ともに徴収している」が38.8%で最も多く、続いて「徴収していない」が34.9%となっている。



(5) クラブの事故対策

クラブの事故対策は、「全員保険に加入」が63.2%（H19は66.0%）と最も多く、続いて「会員以外の参加者全員保険に加入」が33.5%（H19は33.2%）、「全員へ保険を紹介」が27.4%（H19は26.5%）、「クラブの緊急連絡網を作成」が18.7%（H19は13.9%）、「クラブとして賠償責任保険に加入」が17.9%（H19は14.5%）などとなっている。



(6) クラブの活動内容

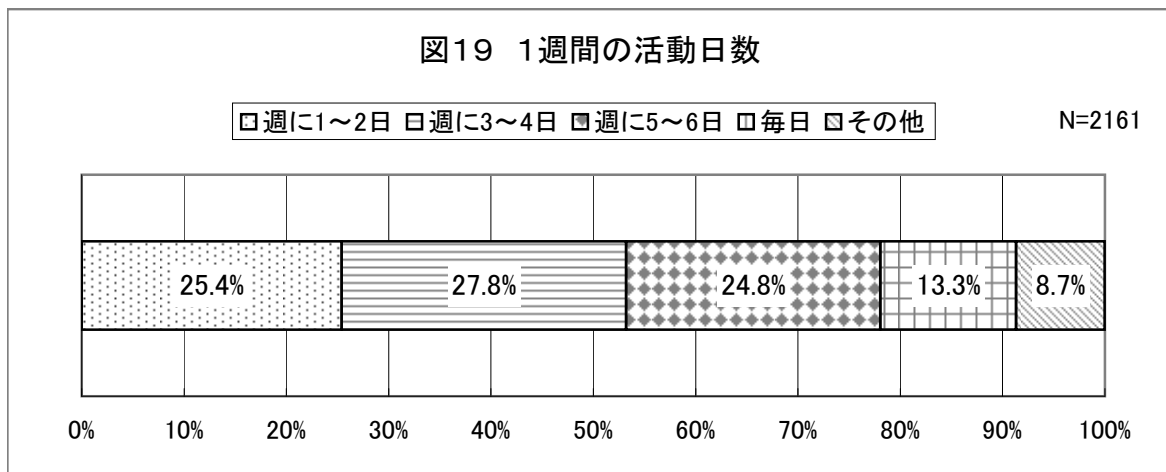
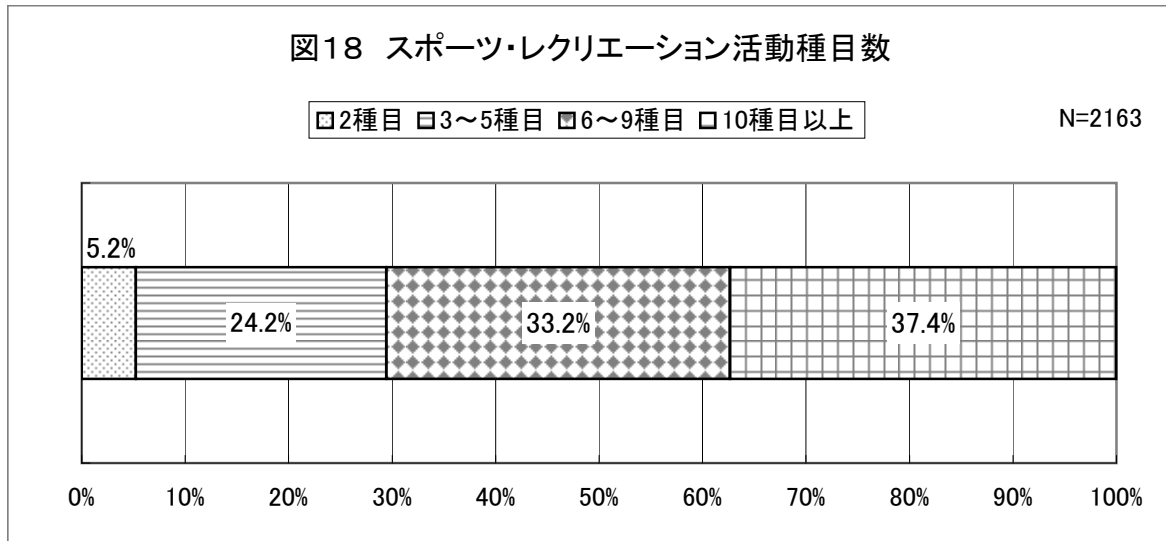
クラブの活動種目は、「10種目以上」が37.4%と最も多く、続いて「6～9種目」が33.2%、「3～5種目」が24.2%となっており、70.6%（H19は73.2%）のクラブが6種目以上の活動を行っている。

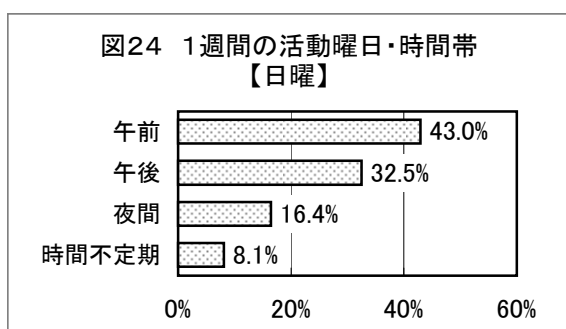
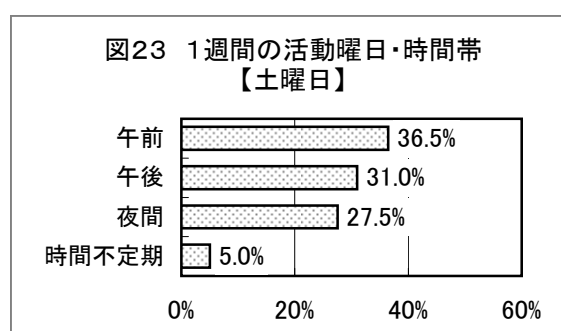
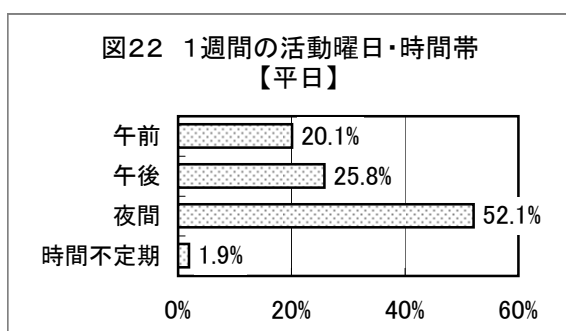
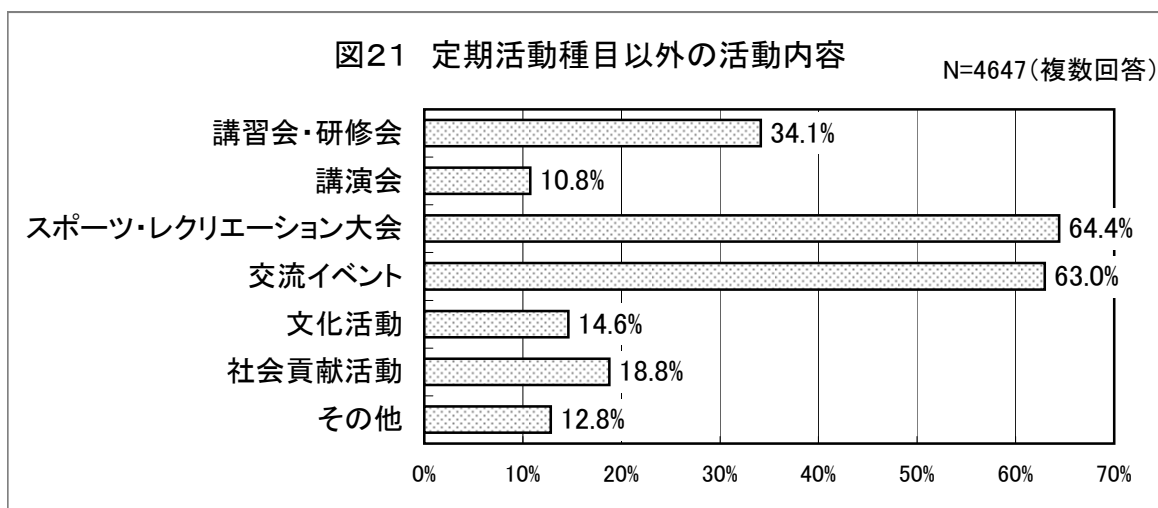
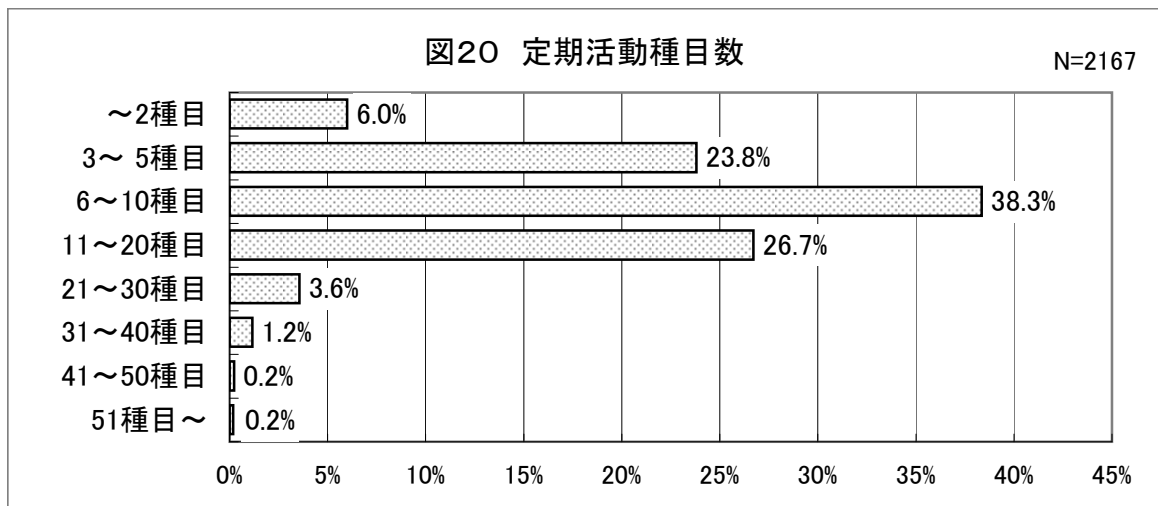
1週間の活動日数は、「週に3～4日」が27.8%（H19は31.0%）と最も多く、続いて「週に1～2日」が25.4%（H19は25.1%）、「週に5～6日」が24.8%（H19は22.3%）、「毎日」が13.3%（H19は12.8%）となっており、65.9%（H19は66.1%）のクラブは3日以上活動をしている。

定期的に活動している種目数は、「6～10種目」が最も多く38.3%、続いて「11～20種目」が26.7%、「3～5種目」が23.8%となっている。

通常の活動種目以外に行っているものとしては、スポーツ・レクリエーション大会が64.4%、交流イベントが63.0%と多く、続いて講習会・研修会が34.1%となっている。

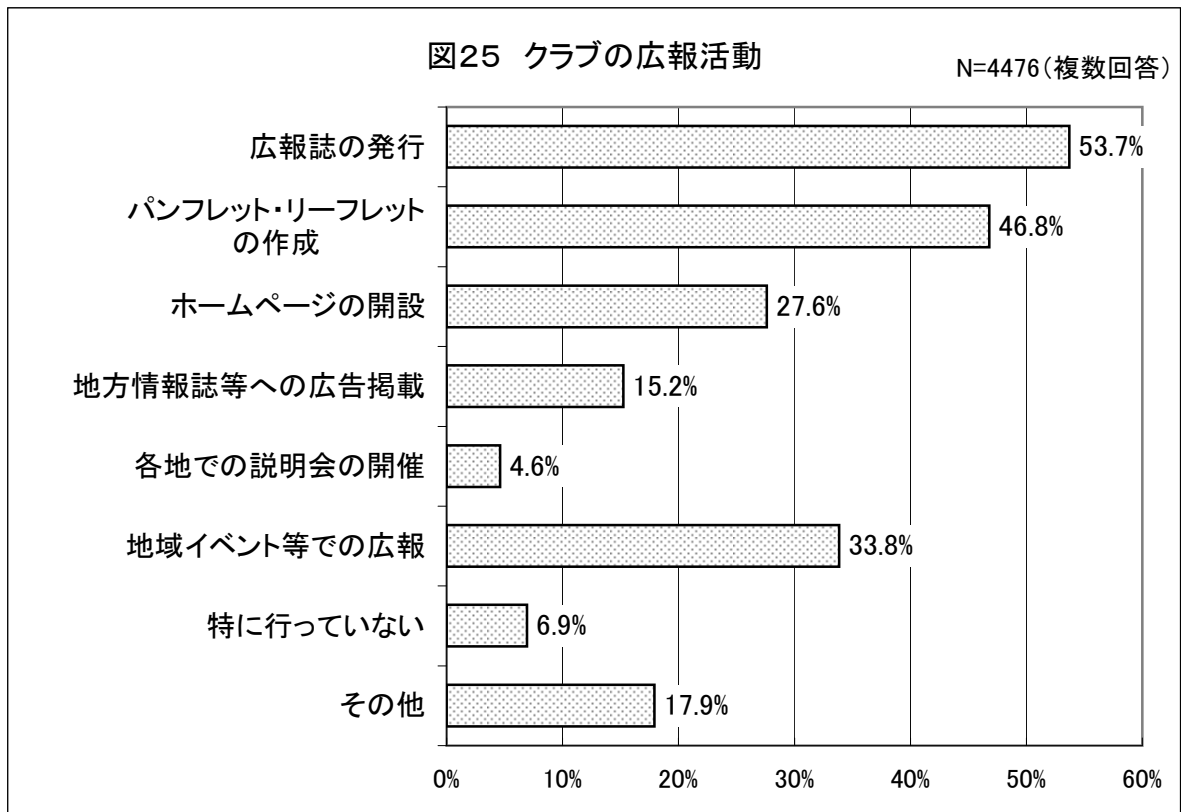
活動時間帯については、平日は夜間（52.1%）、土曜日、日曜日は午前中（それぞれ36.5%、43.0%）が多くなっている。





(7) クラブの広報活動

クラブの広報活動は、「広報誌の発行」が53.7%、「パンフレット・リーフレットの作成」が46.8%、「地域イベント等での広報」が33.8%、「ホームページの開設」が27.6%などとなっている。



(8) クラブ所属のスポーツ指導者

スポーツ指導者は、1クラブに平均23人（H19も23人）が所属しており、そのうち「有資格者」は34.3%（H19は34.8%）、「資格を持たない指導者」は65.7%（H19は65.2%）となっている。

また、手当が支給されているスポーツ指導者は、「有資格者」では43.6%（H19は43.2%）、「資格を持たない指導者」では37.5%（H19は41.2%）となっている。

手当の平均額は、「有資格者」では2,409円/回（H19は2,545円/回）、「資格を持たない指導者」では1,374円/回（H19は1,580円/回）、全体平均では1,770円/回（H19は2,062円/回）となっている。

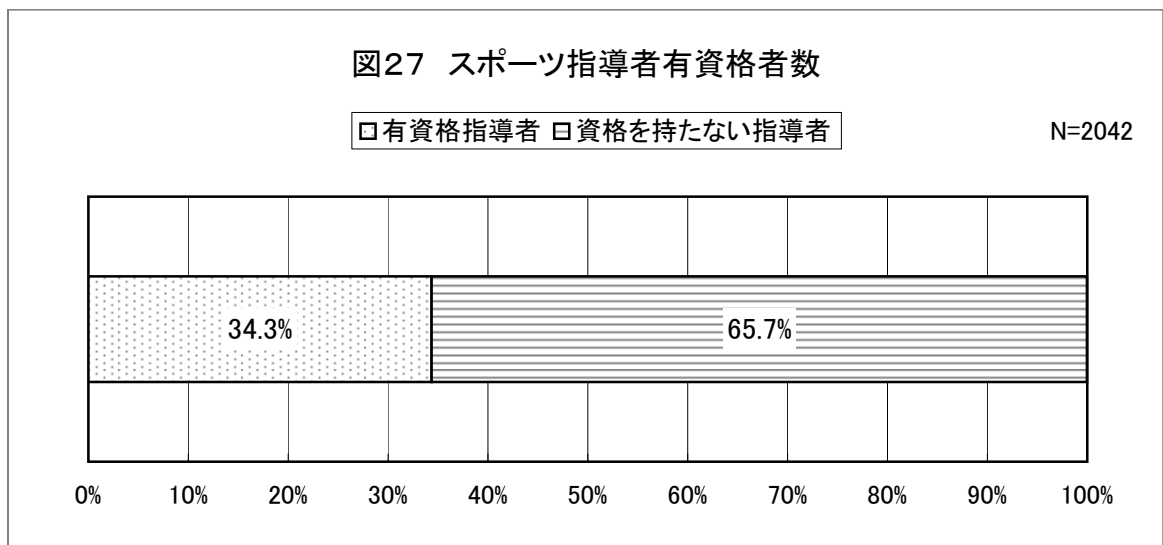
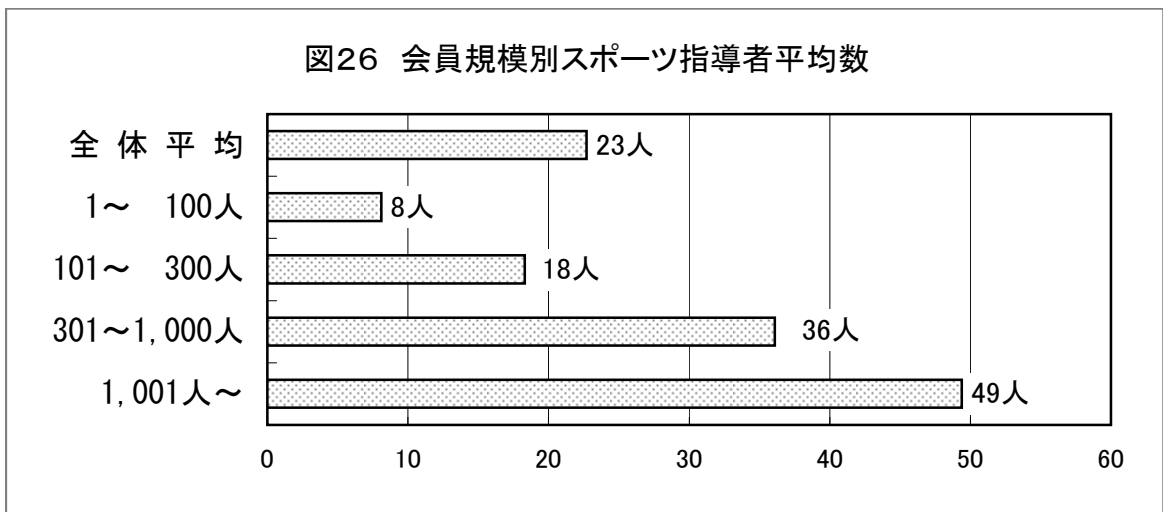


図28 スポーツ指導者の手当ての有無【有資格指導者】

□有 □無

N=16414

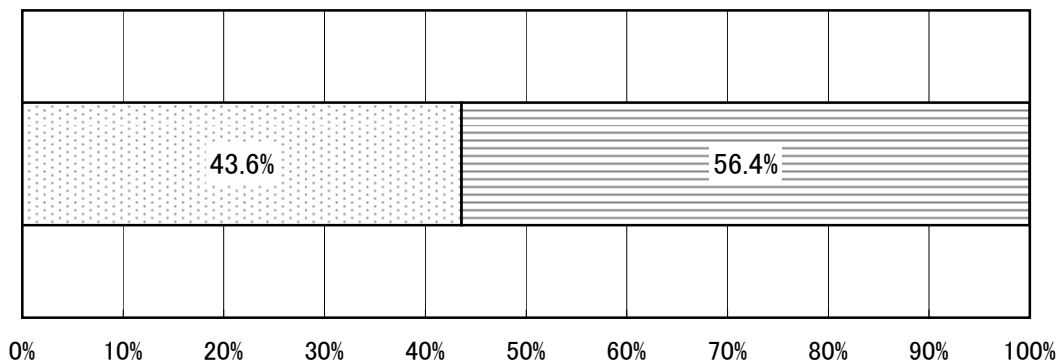


図29 スポーツ指導者の手当ての有無【資格を持たない指導者】

□有 □無

N=31372

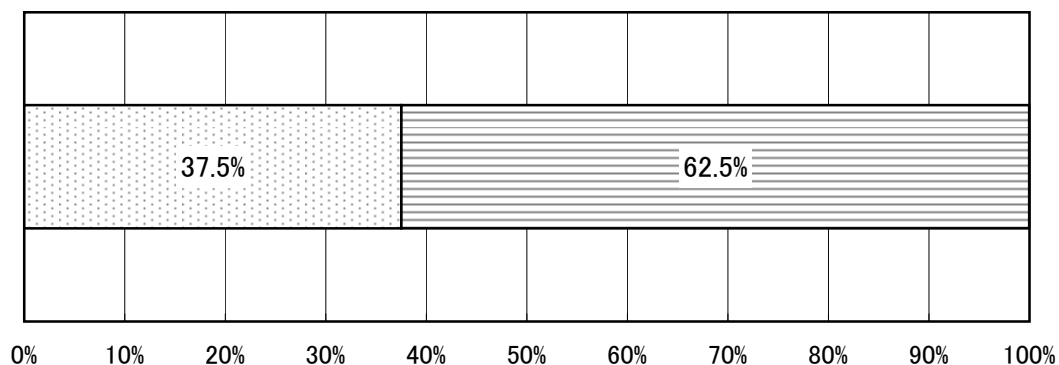
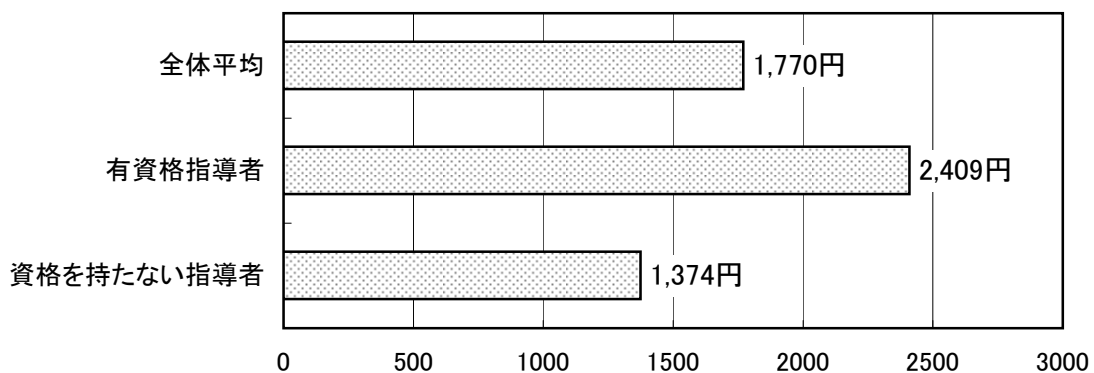


図30 スポーツ指導者の有資格者別の手当ての平均額



(9) クラブの事務局体制

1) クラブマネジャー

クラブにおけるクラブマネジャーの配置は、「配置している」が61.4%（H19は65.8%）、「配置していない」が38.6%（H19は34.2%）となっている。

クラブマネジャーの勤務形態をみると、「常勤」が322人で16.7%（H19は16.3%）、「非常勤」が1,608人で83.3%（H19は83.7%）となっている。

手当が支給されているクラブマネジャーは「常勤」では71.7%（H19は70.6%）、「非常勤」では16.2%（H19は13.0%）となっている。

手当の平均額は、「常勤」では6,242円/日（H19は5,809円/日）、「非常勤」では3,660円/日（H19は3,420円/日）で、全体では4,865円/日（H19は4,615円/日）となっている。

クラブマネジャーのうち、クラブマネジャー養成講習会等を受講しているクラブマネジャーは41.1%である。

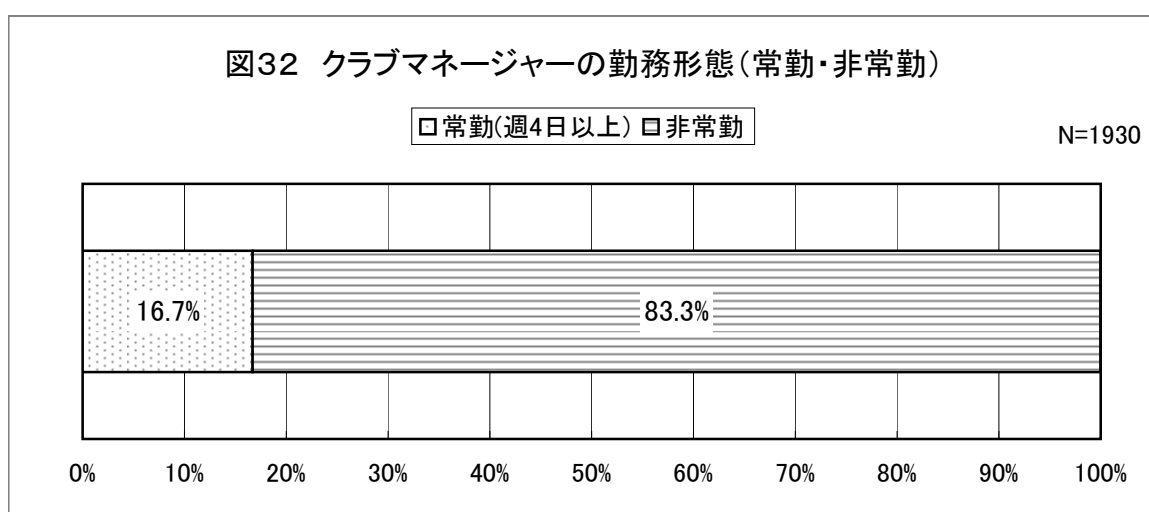
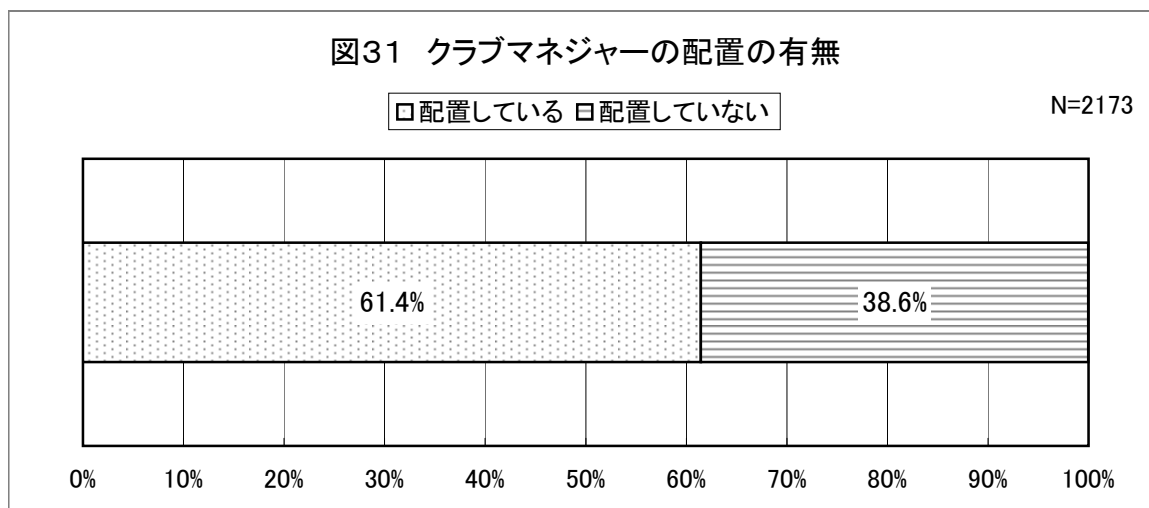


図33 クラブマネジャーの手当ての有無【常勤】

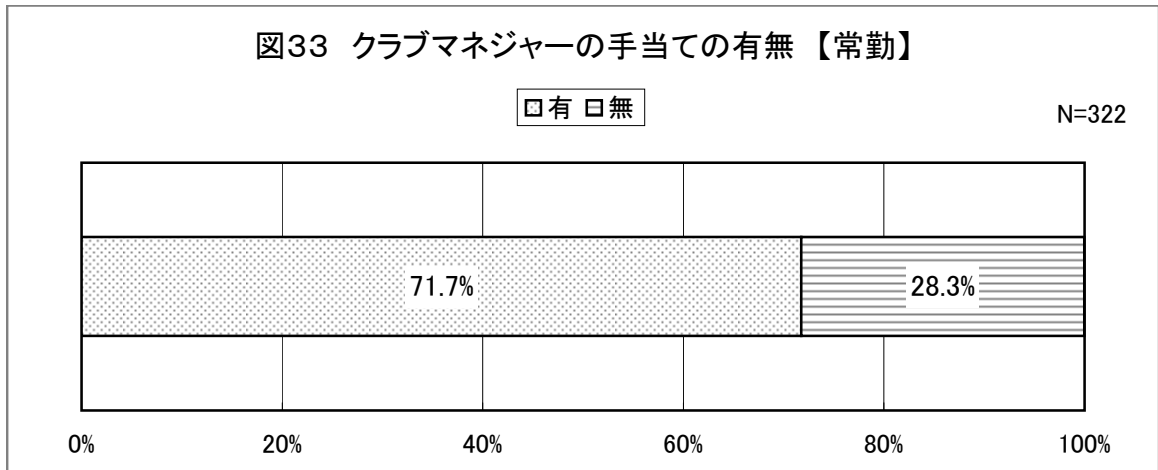


図34 クラブマネジャーの手当ての有無【非常勤】

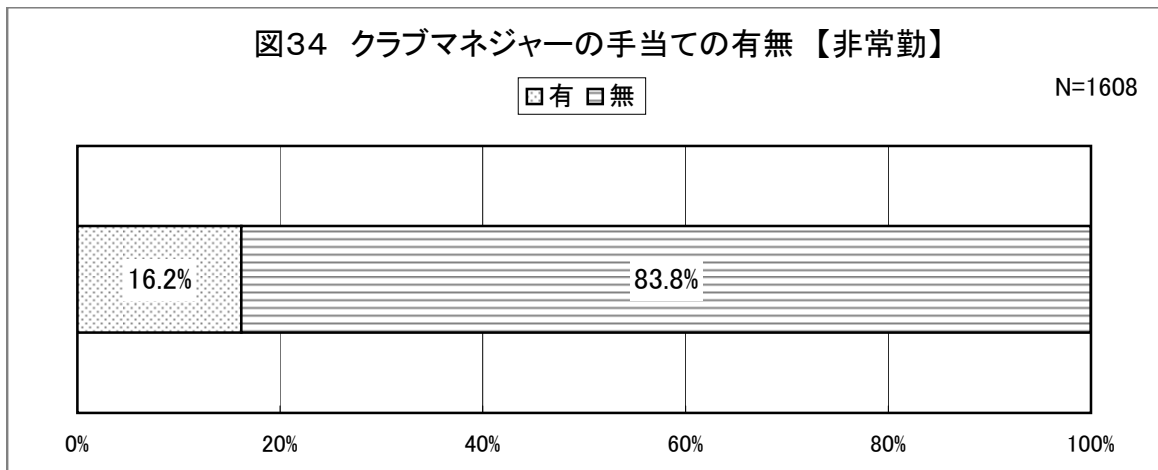


図35 クラブマネジャーの勤務形態別 手当の平均額

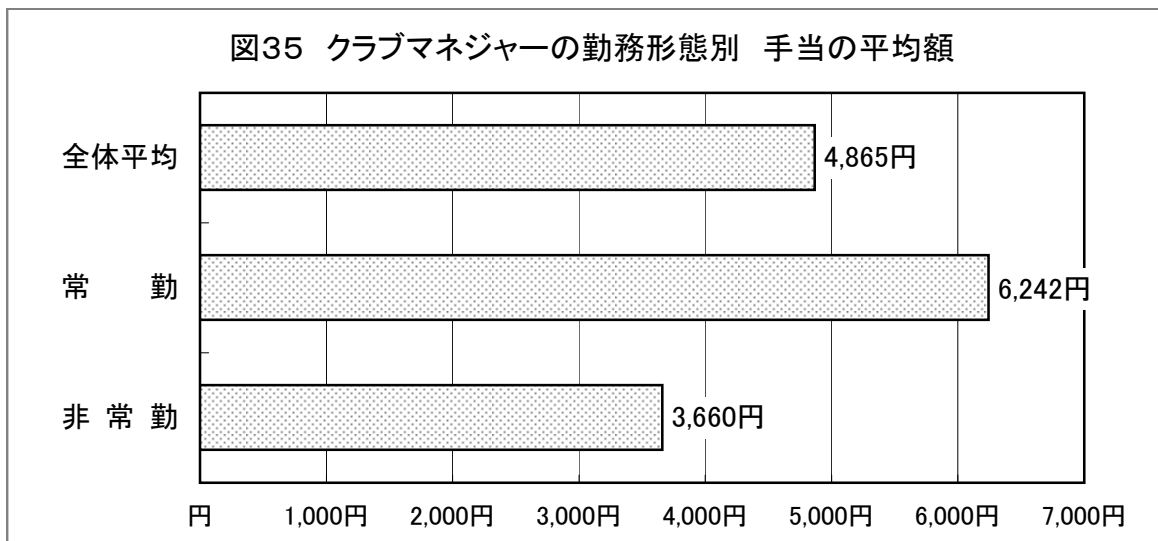
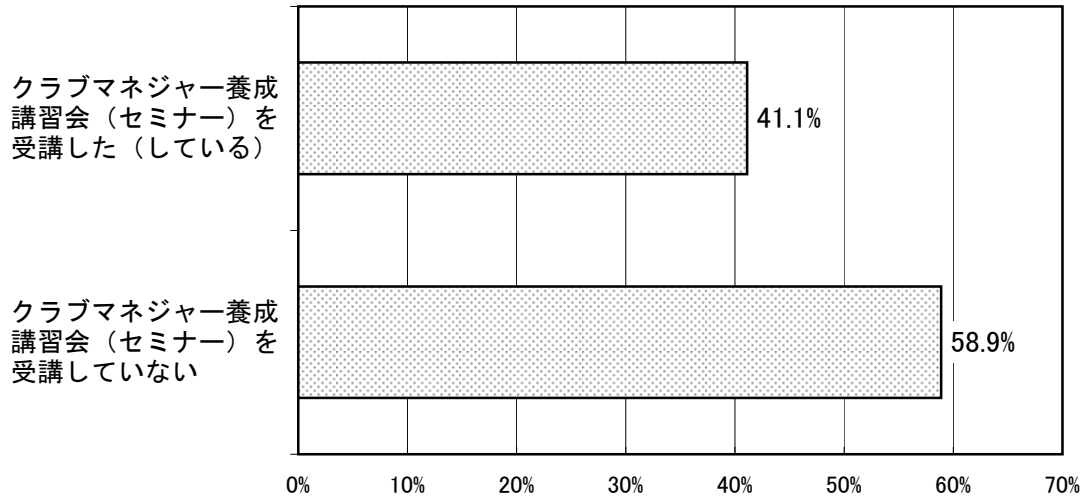


図36 クラブマネジャー講習会の受講状況

N=1941



2) 事務局員

クラブにおける事務局員の配置は、「配置している」が51.3%（H19は45.1%）、
「配置していない」が48.7%（H19は54.9%）となっている。

クラブに配置されている事務局員の勤務形態をみると、「常勤」が24.2%（H19は
23.9%）、「非常勤」が75.8%（H19は76.1%）となっており、手当が支給されて
いる事務局員は、常勤では64.0%（H19は60.5%）、「非常勤」では37.0%（H19は
36.4%）となっている。

手当の平均額は、「常勤」では5,656円/日（H19は4,909円/日）、「非常勤」
では2,815円/日（H19は3,179円/日）で、全体の平均としては3,845円/日（H19は
4,044円/日）となっている。

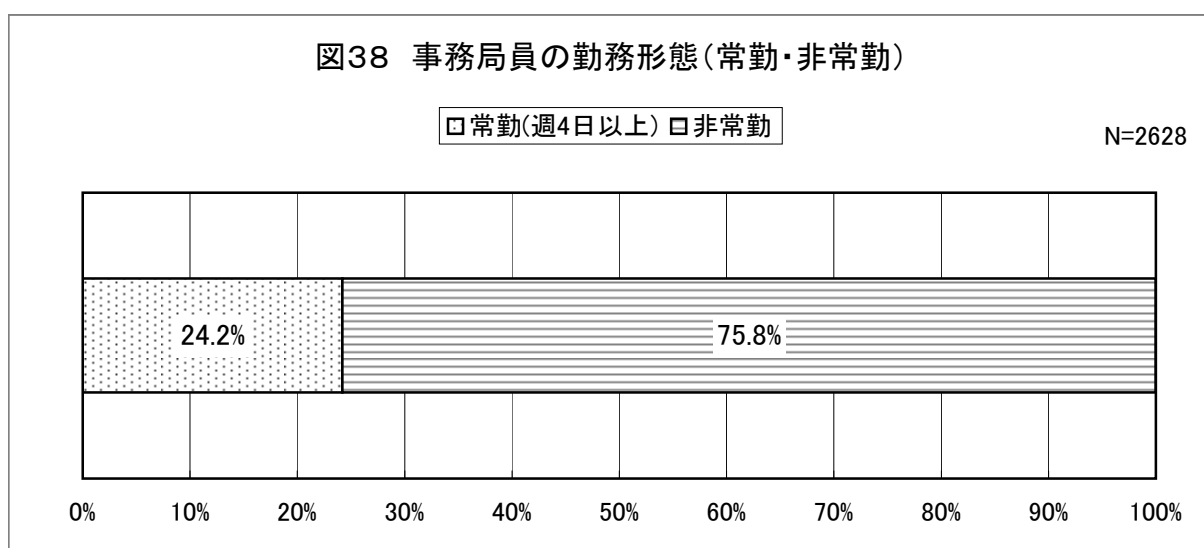
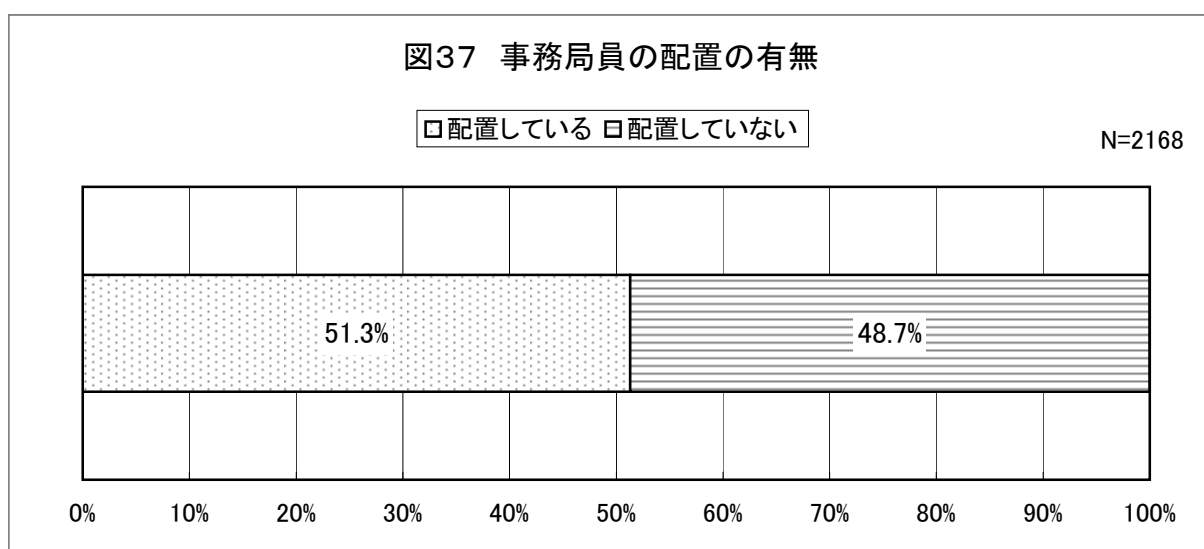


図39 事務局員の手当の有無【常勤】

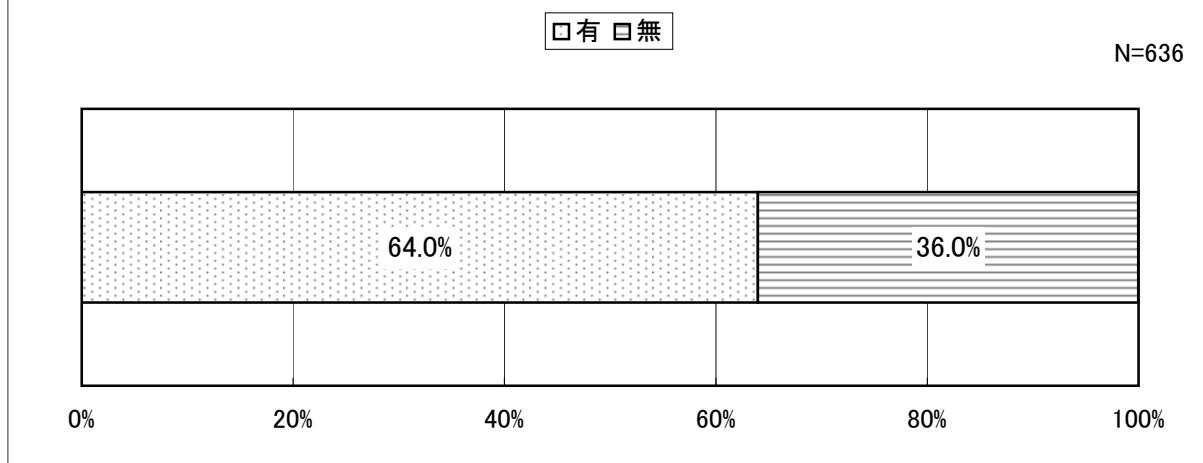


図40 事務局員の手当の有無【非常勤】

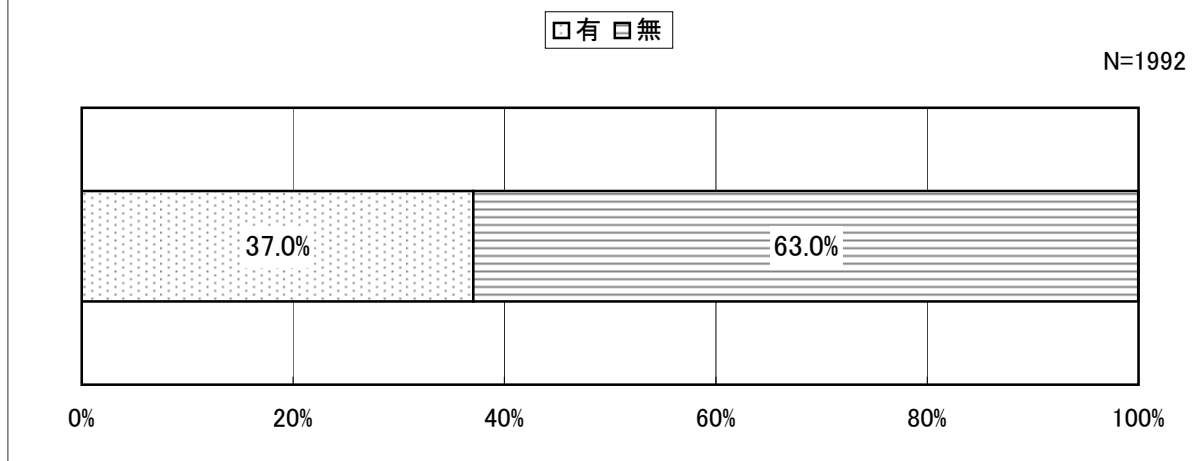
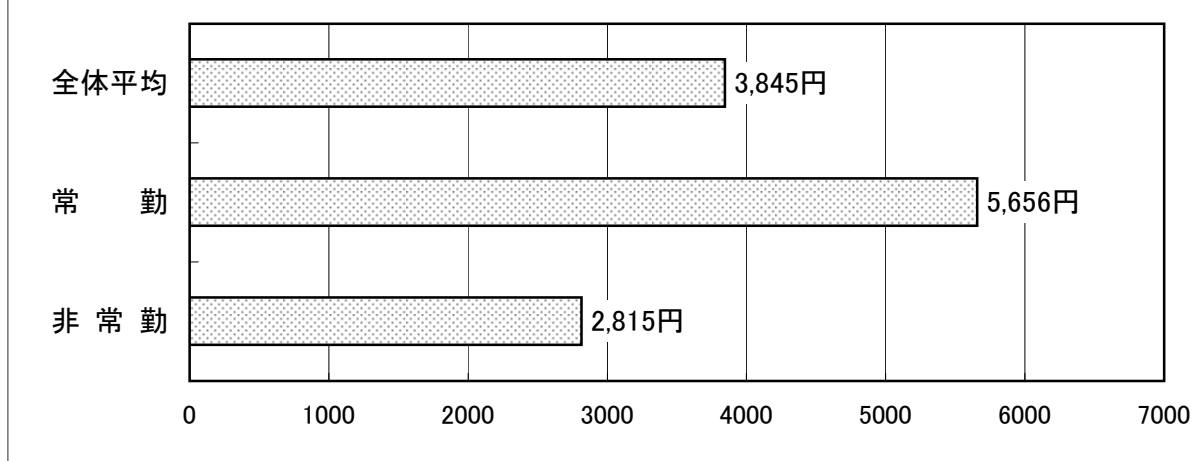


図41 事務局員の勤務形態別(常勤・非常勤)の手当の平均額



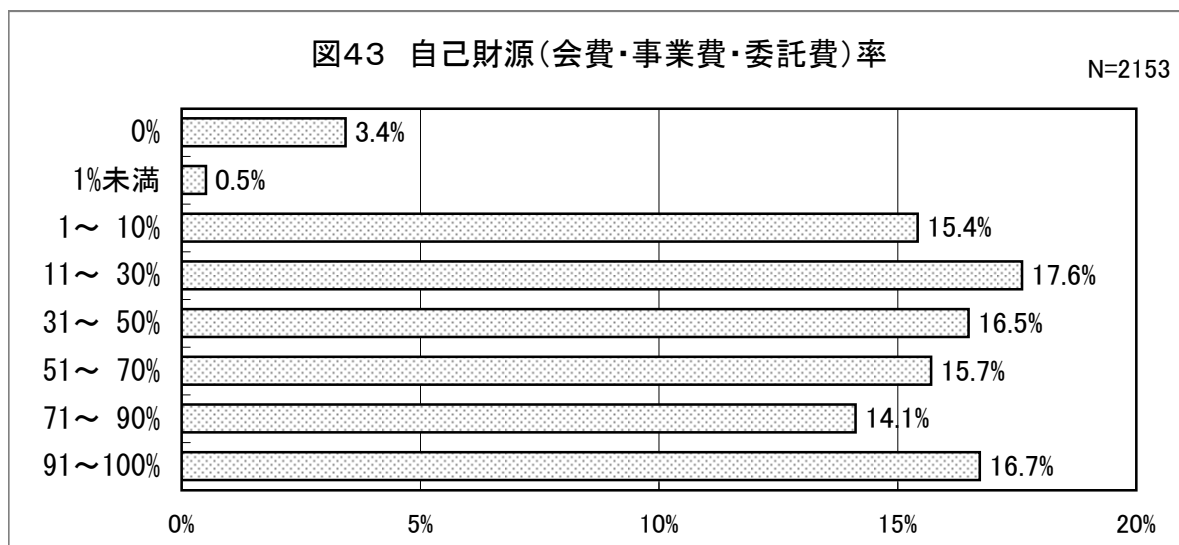
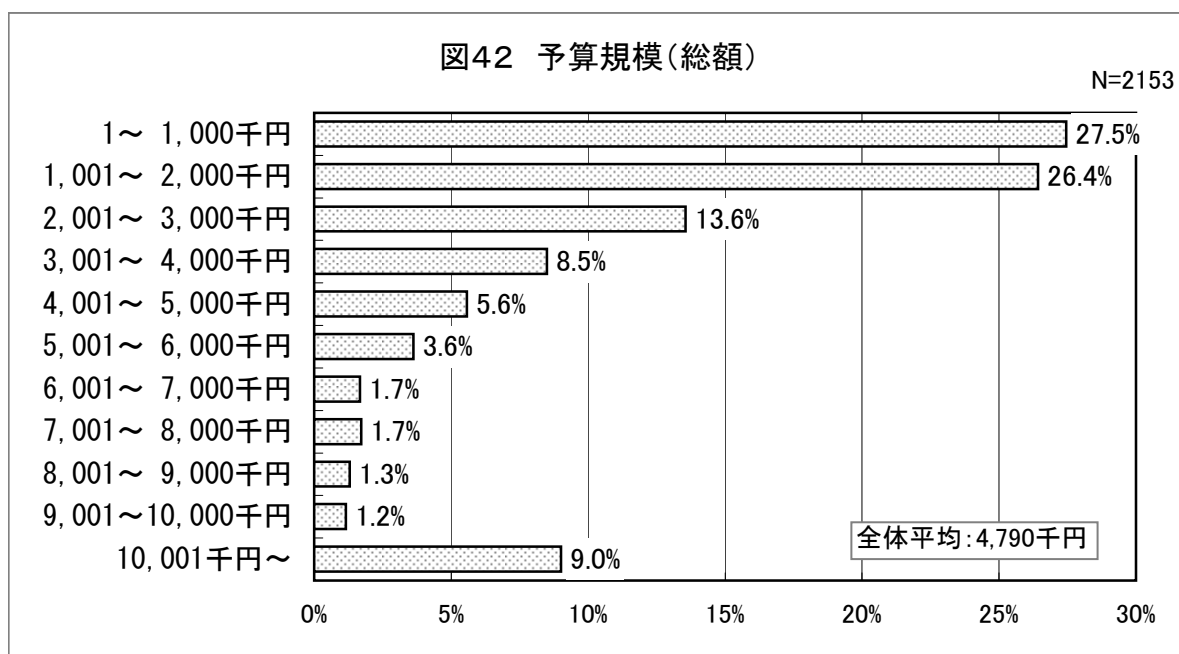
(10) クラブの活動費

クラブの年間予算は、「100万円以下」が27.5%（H19も27.5%）と最も多く、続いて「101万～200万」が26.4%（H19は25.3%）、「201～300万円」が13.6%（H19は14.0%）となっており、全体の67.5%（H19は66.8%）が300万円以下となっている。全体平均は479万円である。

また、自己財源率をみると、「11～30%」が17.6%（H19は18.0%）と最も多く、続いて「91～100%」が16.7%（H19は17.0%）、「31～50%」が16.5%（H19は15.8%）となっている。

全体の53.4%（H19は52.0%）が「50%以下」となっている。

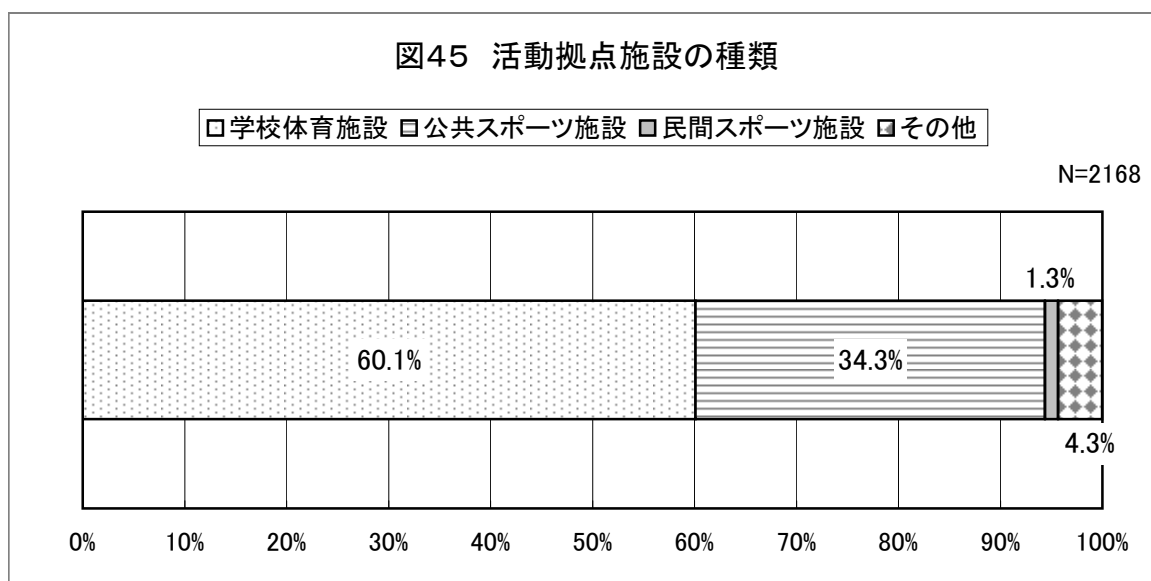
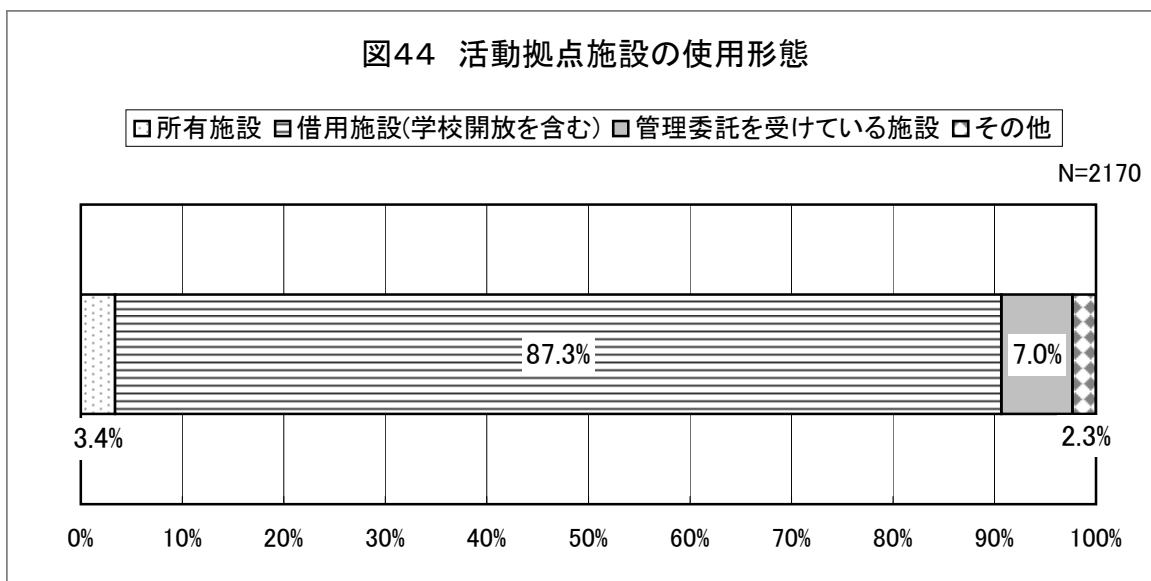
※「自己財源率」とは、自己財源を「会費・事業費・委託費」とし、これらが全体収入に占める割合をいう。



(11) クラブの活動拠点施設

クラブの活動拠点施設の使用形態は、「借用施設」が87.3%（H19は87.9%）で最も多く、「管理委託を受けている施設」が7.0%（H19は6.6%）、「所有施設」が3.4%（H19は3.3%）となっている。

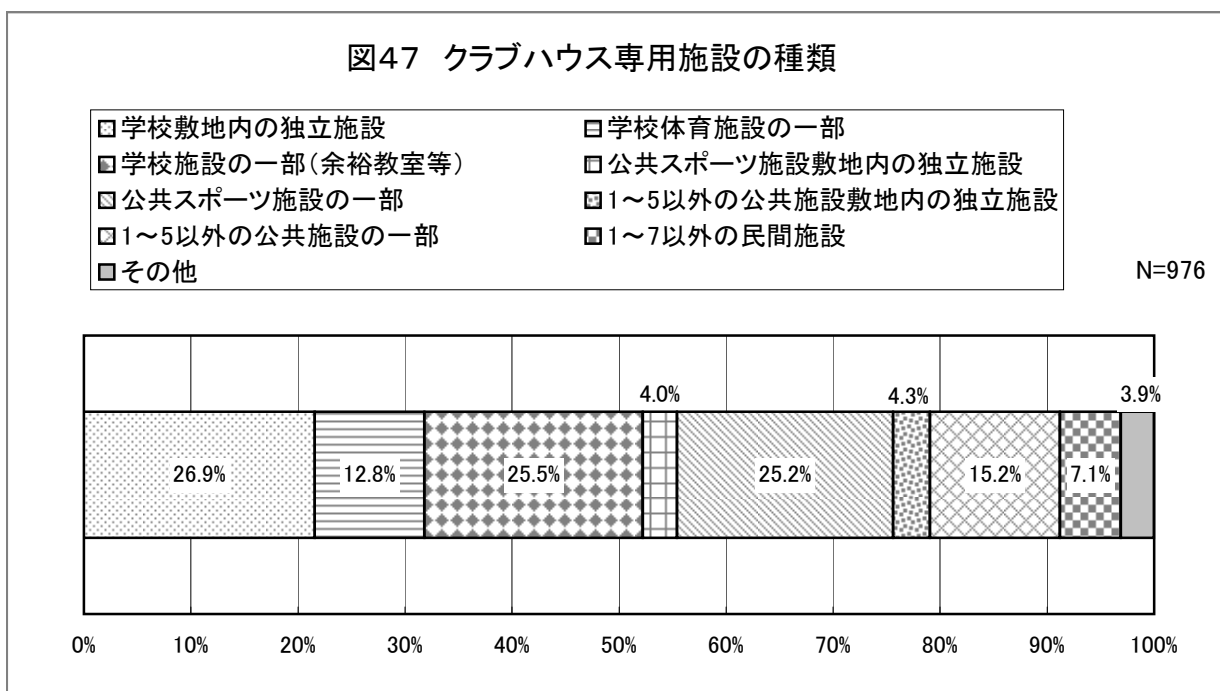
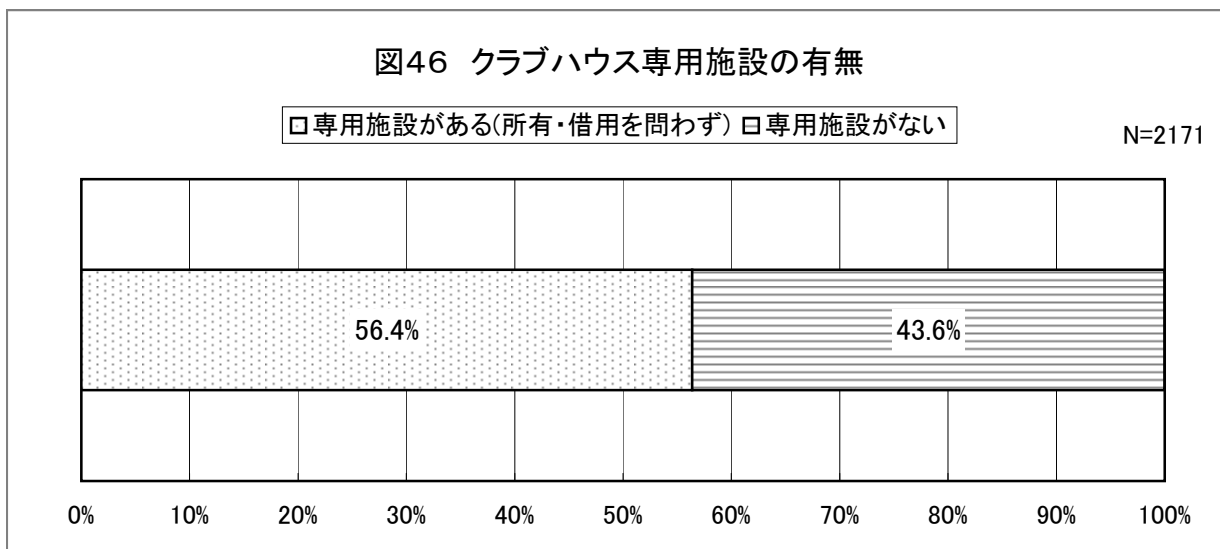
活動拠点施設の種類は、「学校体育施設」が60.1%（H19は62.0%）、「公共スポーツ施設」が34.3%（H19は33.3%）、「民間スポーツ施設」が1.3%（H19は1.2%）などとなっている。



(12) クラブハウス

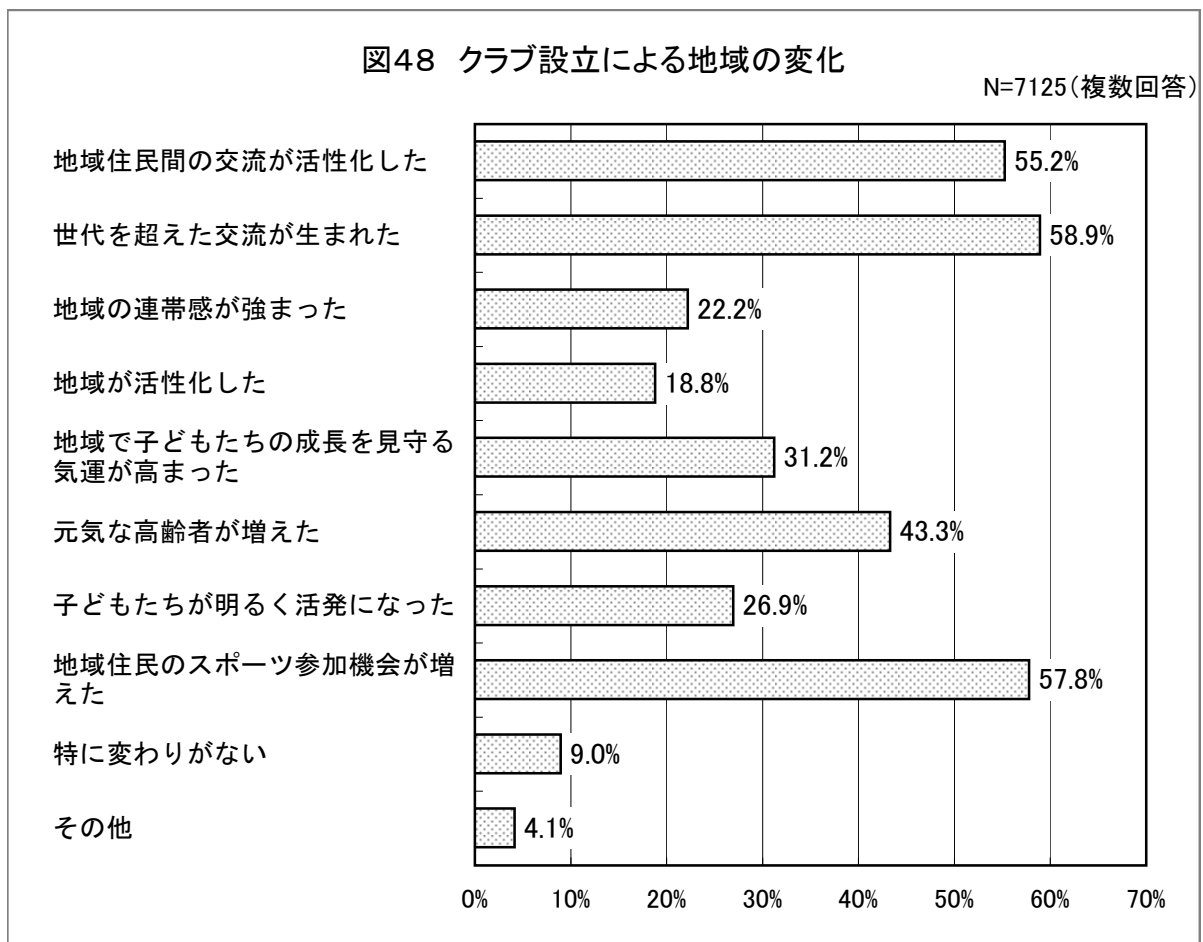
クラブハウスの確保については、「専用施設がある」が56.4%（H19は56.6%）、
「専用施設がない」が43.6%（H19は43.4%）となっている。

クラブハウスの種類は、「学校敷地内の独立施設」が26.9%（H19は22.6%）、
「学校施設の一部」が25.5%（H19は21.8%）、
「公共スポーツ施設の一部」が25.2%（H19は18.8%）などとなっている。



(13) クラブ設立の効果

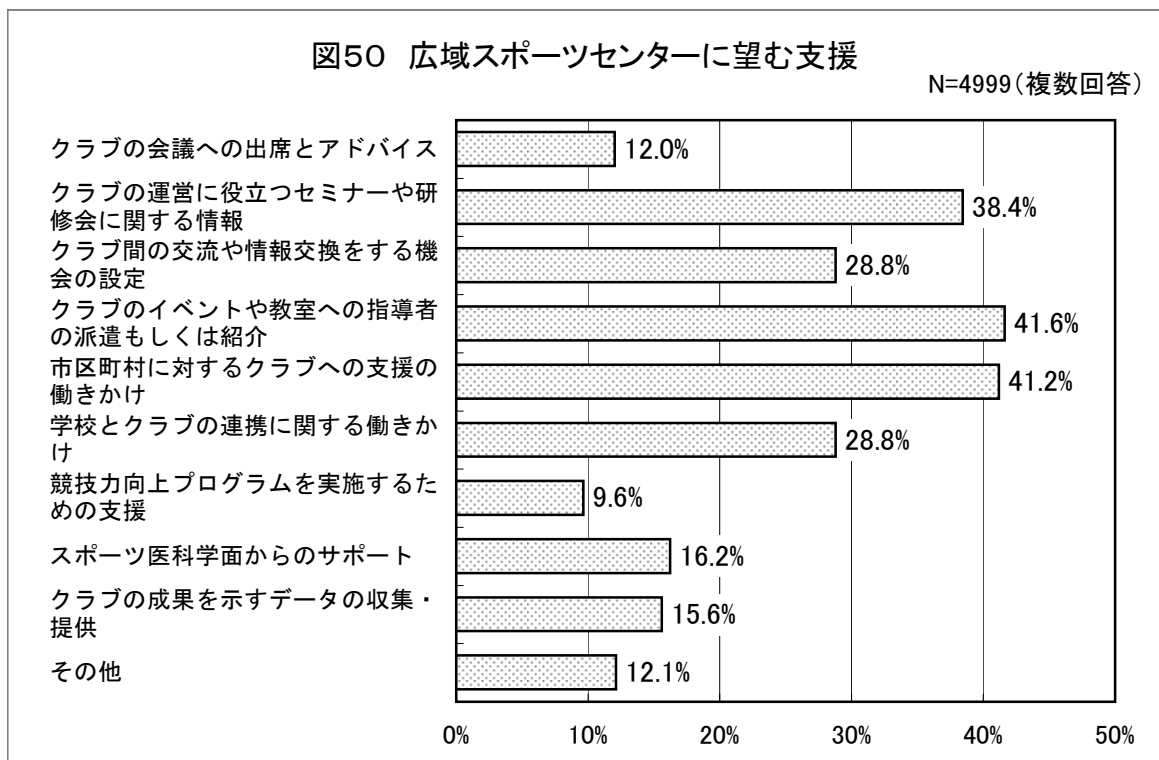
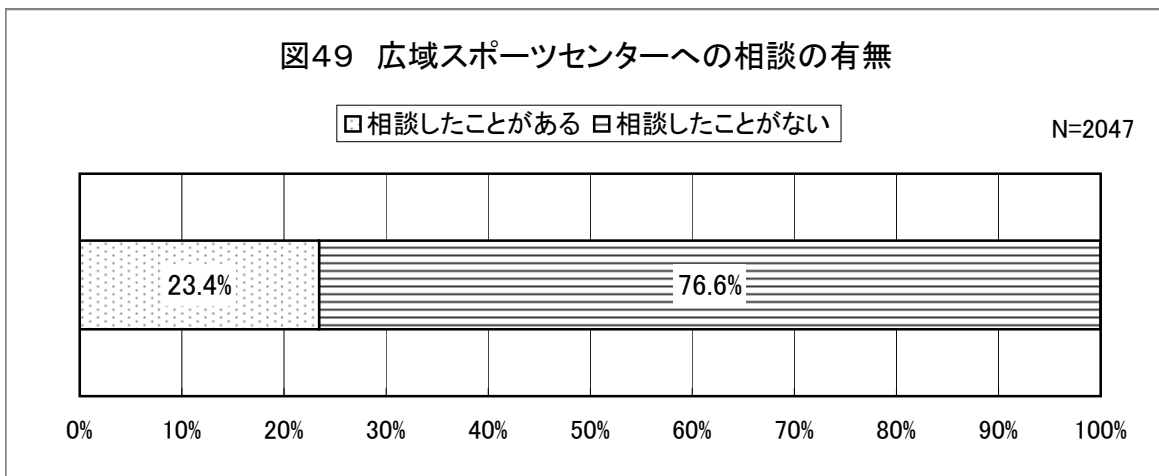
クラブ設立による地域の変化は、「世代を超えた交流が生まれた」が58.9%、「地域住民のスポーツ参加機会が増えた」が57.8%、「地域住民間の交流が活性化した」が55.2%、「元気な高齢者が増えた」が43.3%、「地域で子どもたちを見守る気運が高まった」が31.2%などとなっている。



(14) 広域スポーツセンターとの連携

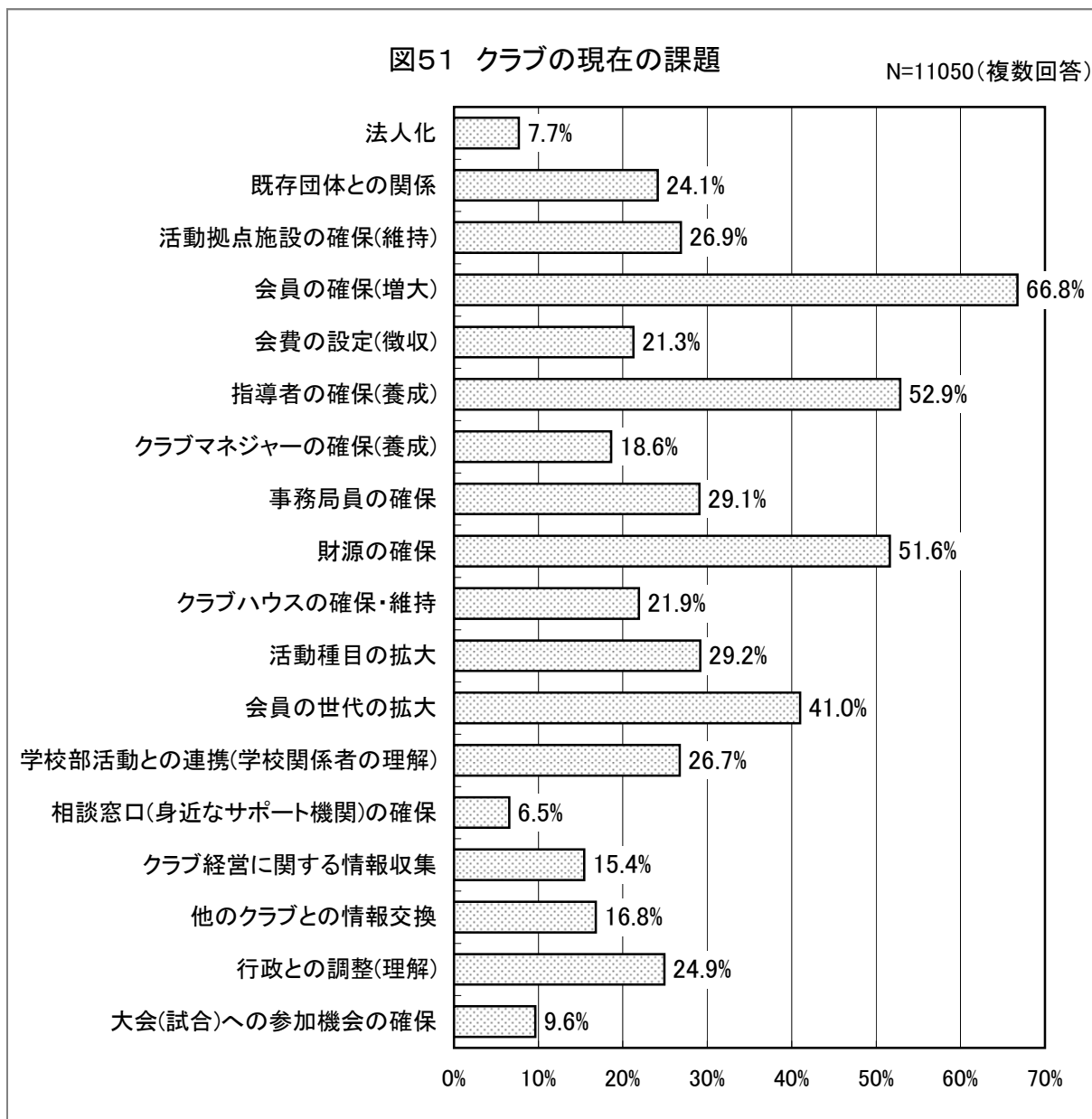
この1年間に広域スポーツセンターに相談したことがあるかについては、「相談したことがある」が23.4%（H19は22.1%）、「相談したことがない」が76.6%（H19は77.9%）となっている。

また、広域スポーツセンターに望む支援としては、「クラブのイベントや教室への指導者の派遣もしくは紹介」が41.6%（H19は36.4%）と最も多く、続いて「市町村（行政）に対するクラブへの支援の働きかけ」が41.2%（H19は36.8%）、「クラブの運営に役立つセミナーや研修会に関する情報提供」が38.4%（H19は37.3%）、「クラブ間の交流や情報交換の機会の設定」と「学校とクラブの連携に関する働きかけ」がともに28.8%（H19は前者が27.4%、後者が22.6%）などとなっている。



(15) 現在の課題

クラブの現在の課題は、「会員の確保（増大）」が66.8%（H19は63.5%）、「指導者の確保（増大）」が52.9%（H19は53.4%）、「財源の確保」が51.6%（H19は51.5%）、「会員の世代の拡大」が41.0%（H19は34.9%）などとなっている。



平成20年度
総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果
概 要

平成21年1月
文部科学省 スポーツ・青少年局
生涯スポーツ課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

T E L 03-6734-2686

F A X 03-6734-3792

担当 星 香 里

鈴木 悦子